

<a href="#">トップメッセージ</a>	<a href="#">経営理念</a>	<a href="#">タムラグループの価値創造</a>	<a href="#">CSRマネジメント</a>	<a href="#">環境(E)</a>	<a href="#">社会(S)</a>
<a href="#">ガバナンス(G)</a>	<a href="#">取引先通報・相談窓口</a>	<a href="#">編集方針</a>	<a href="#">CORPORATION REPORT</a>	<a href="#">ダウンロード資料</a>	

[トップページ](#) > [CSR](#)

## CSR

### CSRニュース

[一覧](#)

- 2020.10.05 [CSR](#) 取引先通報・相談窓口を開設しました
- 2020.08.06 [CSR](#) CORPORATION REPORT 2020を掲載しました
- 2020.08.06 [CSR](#) CSRサイトを更新しました
- 2020.02.03 [CSR](#) タムラグループグリーン調達基準を改定いたしました
- 2020.01.22 [CSR](#) ISO14001認証証明書を更新いたしました

#### ・トップメッセージ

株式会社タムラ製作所代表取締役からのメッセージです。



#### ・経営理念

お客様や社会に喜んでいただける製品・サービスを提供し続ける「オンリーワン」カンパニーを目指します。



#### ・タムラグループの価値創造

事業活動を通じて社会に貢献していくことで、企業価値を向上し、社会的課題の解決に向けて、新たな価値創造に取り組みます。



#### ・CSRマネジメント

- [タムラグループのCSR](#)
- [CSR活動実績](#)



#### ・環境(E)

- [環境経営](#)
- [環境目標及び実績と評価](#)
- [環境貢献製品](#)
- [環境保全への取り組み](#)

#### ・社会(S)

- [人権・労働](#)
- [品質・サービス](#)
- [サプライチェーンマネジメント](#)
- [社会貢献活動](#)

▶ ZEBリーディング・オーナー



## ▶ ガバナンス(G)

- ▶ コーポレート・ガバナンス
- ▶ コンプライアンス
- ▶ リスクマネジメント



## ▶ 編集方針

タムラグループのCSR・ESGに対する考え方や取り組みについて、幅広いステークホルダーの皆様にご理解を深めていただけるよう、わかりやすく充実した情報開示に努めています。



**！ 報告対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日(一部、2020年4月以降の活動も含みます)**

## ▶ CORPORATION REPORT

最新のCORPORATION REPORTとそのバックナンバーPDFファイルをダウンロードいただけます。



## ▶ ダウンロード資料

- ▶ 調達ガイドライン
- ▶ グリーン調達基準
- ▶ ISO14001認証証明書



▶ CSRに関するお問い合わせ

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.



トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	

[トップページ](#) > [CSR](#) > [トップメッセージ](#)

## トップメッセージ

「Oneタムラ」としてグループの総力を挙げて  
100周年に向けさらなる発展に尽力してまいります。

タムラグループは長期ビジョンとして創業100周年（2024年）とその先に続く持続的な成長を見据える中期経営計画を、2019年4月よりスタートしています。そこに突然現れたコロナ禍の中、会長・社長の両名に現在の事業環境と今後の見通しに関する想いを聞きました。（インタビュー実施日：2020年6月2日）



代表取締役会長  
田村 直樹

代表取締役社長  
浅田 昌弘



### 国連グローバル・コンパクト 支持表明メッセージ

タムラグループは、国連グローバル・コンパクトの人権、労働、環境および腐敗防止の4分野に関する10原則を引き続き支持し、推進してまいりますことを、ステークホルダー（利害関係者）の皆様方に宣言いたします。



代表取締役社長  
浅田 昌弘

2019年度の事業環境と主な業績についてご説明をお願いします。

**浅田** 2019年度は、米中貿易摩擦の最中に始まり、終盤に至って新型コロナウイルス感染症が経済を直撃するなど、当社にとって波乱の1年となりました。なによりもまずは、新型コロナウイルスに罹患された方々、困難な状況におかれている方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。また、感染拡大防止のために、それぞれの立場で日々努力し、社会に貢献されている全ての皆様へ、深く感謝を申し上げます。収益面では、残念ながら「米中摩擦」と「新型コロナウイルス」という2大要因によって対前期比で減益となり、中期経営計画初年度の目標も未達となってしまいました。特に期待をしていた「車載製品」は、新型コロナの影響で自動車メーカーの生産計画が後ろ倒しになったことから事業全体が停滞しました。しかし、今後もハイブリッド車など環境対応車のニーズは高まり続けると予測しており、アフターコロナの需要増に期待しています。また、電子化学製品では中国の5G市場が拡大を続けていますので、米中摩擦の中でも今後の投資の伸びが期待できると考えています。

## 2020年1月に実施された「経営層の担当事業変更」の狙いを教えてください。

**浅田** 2019年度にスタートした中期経営計画「Bilrite Tamura GROWING ANEW」では、今後の市場拡大が期待される「車載」「パワーエレクトロニクス」「IoT・次世代通信」の3分野を成長の柱に位置付けています。これらの市場に「Oneタムラ戦略」として、全社員が「One Team」となり、総力を結集して顧客にアプローチしていくことを方針としています。

今回、各分野に精通した事業部トップの配置を換えたのは、各事業部のベストプラクティスを他の事業領域でも展開し、異なる事業同士の掛け合わせによる化学反応を期待したものです。例えば車載製品には、電子部品だけでなく電子化学や実装装置関連のビジネスチャンスも存在しています。つまり、さらなる業績拡大のためには事業部単独ではなくグループ丸となったアプローチが重要であるわけです。これまで以上に事業の垣根を超えた人材活用を加速させながら、全社レベルのビジネス効率化を進めていきたいと思っています。

## 業績拡大に向けた顧客へのアプローチのポイントはどのようなことでしょうか？

**浅田** グループ丸となって個々のお客様に向き合い、「タムラグループは、部品、材料、装置など多様な事業を手がけている」ということに加え、事業の幅が広いからこそ業績も安定し、グローバル規模でネットワークが広がっていることを、お客様にご理解いただきたいと思います。今後のビジネスシーンでは、「タムラ」というブランドの浸透をミッションとして、第一にタムラグループの全体像を、第二に各事業の内容を紹介することで理解を深めていただき、最終的な商談につなげていくというストーリーを思い描いています。

## Oneタムラ戦略における人材活用や人材育成の考え方をお聞かせください。

**浅田** 当面は、Oneタムラ戦略に連動して経営層の強化と育成に力を入れていきます。これまでボトムアップの教育プログラムは比較的充実していた反面、経営のけん引役となる人材育成が急務となっていたためです。

また、ビジョンに連動した人事制度改革も進めます。当社のような「ものづくり企業」では、イノベーションを担う専門職社員にマネジメントの負担まで重なると、せっかく尖った感性を持つ貴重な人材が開発に時間を割けないという弊害が生まれます。しかも「名選手、必ずしも名監督にあらず」と言われるように、専門職として優れた人がマネジメント能力にも長けているとは限りません。であれば、人事制度としても専門職が自らの専門領域を極めながら上を目指せることが必要です。働き方改革は「働きやすさ」ばかりが目目されますが、「働きがい」も重視して、開発者や研究者には研究開発に没頭できる環境を提供する制度を構築したいと考えています。



代表取締役会長  
田村 直樹

## 従業員に関する話題では、SDGsに対する認識度が97%に上ったという調査結果をお聞きしました。これはどのような要因によるものでしょうか？

**田村** ほぼ100%に近い認知度になったのは、プッシュ型の情報提供に力を入れた成果だと思っています。2019年度は「SDGsの17目標とは何か」について、従業員に向けたメールマガジンで定期的かつ集中的に配信しました。17目標の解説だけではなく、世界中で行われている具体的な取り組みや社内で行われた活動事例を同時に紹介したことで、SDGsを身近に感じてもらったのではないかと考えています。

例えば、SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」は、一見すると当社の事業には関わりのないものと思いますが、私は、事業活動とは開発、生産、商取引だけではなく、社員に対する教育や福利厚生も含まれていると考えています。そんな折、同じ業界でCSR活動でもご縁のあるパナソニックの方から、持続可能性が担保された魚介類を社員食堂で提供する「サステナブル・シーフード」という活動をされているとお聞きしたのです。これはまさに事業の中で「海の豊かさを守ろう」に貢献できるものであると考え、さっそく当社の社員食堂の運営委託会社と協議し、CoC認証\*を取得してもらい、定期的にサステナブル・シーフードを提供できるようになりました。今後も、このようなSDGsを身近に感じられる施策を展開していきたいと思っています。

\*サステナブル・シーフードとして認証されたMSC（天然水産物認証制度）／ASC（養殖水産物認証制度）の水産物が、非認証水産物と混ざることなく消費者に届くこと（トレーサビリティ）を担保した認証制度

## SDGsに関しては、温室効果ガスや再生可能エネルギーについて、2030年に向けた目標を改めて設定されました。

**田村** SDGsの目標達成に貢献することをコミットした企業として、具体的なKPIを設定する必要があると考えたからです。温室効果ガスは2030年度にて2013年度比で21%以上の削減、再生可能エネルギーは2019年度導入量を2030年度にて2倍以上とすることを目標としています。

特に再生可能エネルギーについては、将来的な「脱炭素」を見据えたサステナビリティ戦略の一環として目標設定しました。2018年に建て替えた坂戸事業所でNearly ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）認定を取得するなど、脱炭素化に向けた施策もスタートしています。こうした環境投資を継続すると共に、環境貢献製品の拡販と生産性の向上も追求していきます。図らずも新型コロナウイルス感染症対策でビジネスのオンライン化が進んでいますので、これを契機にICTを積極的に活用していくことも考えています。

## SDGsへの貢献も含め、2020年度以降の事業環境について、どのような展望をお持ちでしょうか？

**田村** 持続可能な社会の発展を謳ったのがSDGsですが、新型コロナの出現で社会生活や経済の継続性に疑問が付き始めています。SDGsの理念や目標などの知識は、社員一人ひとりに浸透したはずですので、2020年度は拠点や部門単位で実際のアクションを起こしていくべき年でしたが、状況の変化を踏まえて今一度BCP（事業継続計画）の観点から事業全般を再点検し、まずはBCPマニュアルの見直しを図ることから始めたいと考えています。

**浅田** 経営的には、中期経営計画の柱に据えた「車載」「パワーエレクトロニクス」「IoT・次世代通信」の3分野に注力していくことがSDGsや社会貢献も含めて重要になると考えています。アフターコロナでは、ビジネスの基本スタンスは変えないとしても、やり方は変える必要があるでしょう。オンラインでは、顧客からのアクセスがなければビジネスになりません。物理的に人が出向かないと動かない部分をどう乗り越えていくかも課題です。「どの機能」を「どういう形」で「どこに持つか」をBCPの観点から見直していきたいと思います。

## 最後に、ステークホルダーの皆様へメッセージをお願いします。

**田村** 2019年度は、新型コロナという新たな社会課題が顕在化しましたが、持続可能な企業であるためには、社会や自然との共生はもちろん、ウイルスとさえも共存していく覚悟を持ち、SDGsへの貢献をこれまで以上に意識して経営していくことが重要であると改めて認識しました。特に、テレワークなどによる働き方改革や業務改革、CO<sub>2</sub>排出量削減など新型コロナを契機に良い方向に進んだものは一過性で終わらせず継続し、ポジティブな成果を今後どう維持していくか、それが私たち経営トップの課題であると考えています。

**浅田** 今後、対面からオンラインへと移行行くビジネスの中では、モニター越しでも光って見える製品、お客様から進んで問い合わせたくなるダントツの「魅力ある製品」が必要になってきます。その「魅力ある製品」を作り出すために、マーケティングから見直して製品力をアップさせ、Oneタムラ戦略の事業部門連携を活かした「事業部門コラボ製品」の創造にもチャレンジしていきます。私たちタムラグループは、今のピンチをチャンスに変えて、4年後に迎える創業100周年に向け会社のさらなる発展に尽力してまいります。ステークホルダーの皆様には、これまでと変わらぬご支援をお願い申し上げます。



# Biltrite Tamura GROWING ANEW

Biltrite = Build up + Right  
(作る) (正しく)

ANEW = 「新たに」「改めて」

## 創業100周年(2024年)で目指す姿

本中期経営計画は、国際社会の共通目標である「SDGs(持続可能な開発目標)」達成に向けた取り組みを基軸として、当社が株主、取引先様、従業員、地域社会など、全てのステークホルダーに必要とされる存在として、世の中の期待に応えながら、健全に成長していくことを目指します。



## Oneタムラ戦略

タムラはそれぞれの事業分野で、卓越した製品・技術を持っています。今後大きな成長が期待される「車載」「パワーエレクトロニクス」「IoT・次世代通信」市場に注目し、グループの総力を挙げてOneタムラで取り組みます。新型コロナ問題は、こうしたニーズを急速に加速させています。

車載	パワーエレクトロニクス	IoT・次世代通信
<b>環境対応車の普及 安全快適な走行を支える</b>	<b>次世代の 省エネ社会を支える</b>	<b>近未来の ネットワーク社会を支える</b>
世界的に高まるエコカーのニーズに対応して、燃費・環境性能をはじめ、走行性能や加速性能を高めるために欠かせない幅広い車載関連製品を提供します。	再生可能エネルギーの拡大に向けた風力発電や送配電に使用する製品、エネルギー効率の改善に寄与する製品でパワーエレクトロニクスを推進していきます。	5G(第5世代移動通信システム)スマートフォンなど、多機能化が進む電子デバイス用の化学材料をはじめ、様々な通信技術に対応する製品を提供します。

## 新型コロナウイルス感染症拡大により加速したニーズ

安心安全な交通や物流の実現	クリーンエネルギーの安定供給	人と人をつなぐ技術 リモートワークの実現
<ul style="list-style-type: none"> <li>●昇圧リアクタ・コイル</li> <li>●充電器用リアクタ</li> <li>●電流センサ</li> <li>●車載用ソルダーペースト</li> <li>●車載用ソルダーレジスト</li> <li>●車載用リフローはんだ付装置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大型トランス・リアクタ</li> <li>●ゲートドライバモジュール</li> <li>●酸化ガリウムパワーデバイス</li> <li>●パワーデバイス用無残さペースト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自販機用金額表示器</li> <li>●人感センサ(見守り)</li> <li>●フレキシブル基板用ソルダーレジスト</li> <li>●レーザーはんだ付ペースト</li> <li>●可逆伸縮性接合材</li> <li>●半導体用ソルダーペースト</li> <li>●導電性接合材</li> <li>●スマートファクトリー対応実装装置</li> <li>●4K・8K放送用音声調整卓</li> <li>●音声装置のネットワーク対応</li> </ul>

●電子部品 ●電子化学材料 ●実装装置 ●情報機器

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	

[トップページ](#) > [CSR](#) > [経営理念](#)

## 経営理念

人々の幸せを育むため、タムラにしかできないこと、タムラだからできることを極め、お客様や社会に喜んでいただける製品・サービスを提供し続ける「オンリーワン」カンパニーを目指します。

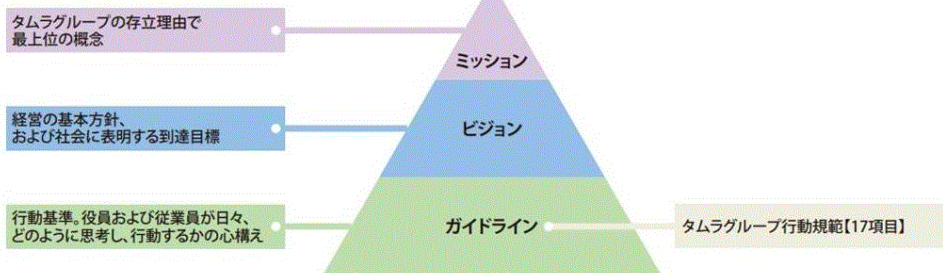
### 経営理念体系

創業の精神である「お客様に世界の一流品を提供する」意志・姿勢を「オンリーワン」と表現し、経営理念を象徴するスローガンとして掲げています。2000年4月、ミッションを頂点とし、ビジョン、ガイドラインと並ぶ三層構造の「タムラグループミッション」を制定しました。「タムラグループミッション」には、「オンリーワン」カンパニーであるとともに「国際社会から認められるグローバル企業を目指したい」「従業員が誇りと夢を持ち続けられる企業でありたい」という想いが込められています。また「タムラグループミッション」のガイドラインを具体的な行動に落とし込んだ「[タムラグループ行動規範](#)」を2007年1月に制定しました。2014年3月には本規範を改定し、ISO26000の「社会的責任に関する手引き」が示す7つの原則を尊重し、7つの中核主題に取り組むことを基本方針として明記しました。さらに2018年10月には [SDGs（持続可能な開発目標）](#) の基本方針を定め、SDGsをグループ全体で取り組むべき課題と位置づけています。

#### コーポレートスローガン

## オンリーワン・カンパニーの実現を目指します

#### タムラグループミッション



#### Mission（ミッション）

私たちは タムラグループの成長を支える全ての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に 高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます。

#### Vision（ビジョン）

1. タムラグループは、世界的視野にたち、エレクトロニクス産業が求める事業を経営基盤とします。
2. タムラグループは、市場本位をつらぬき、世界のお客様が求める技術を事業基盤とします。
3. タムラグループは、公正な視点で社員を評価し、努力によって成果をもたらす人を最も賞賛します。
4. タムラグループは、国際社会の一員として行動し、各国の法規制を順守し文化・慣習を尊重します。
5. タムラグループは、地球環境の保全に努め、資源の有効化と再資源化を推進します。



## Guideline（ガイドライン）

### 1. 私たちは、パートナーシップを大切にします。

私たちは、地位や専門性そして国や組織の違いをこえて、お互いを信頼できるパートナーとして、個人およびチームの目標を達成します。また、市場のニーズを的確にとらえ各自の専門性を研ぎ、お客様からの期待をさらに高めます。

### 2. 私たちは、革新する勇気を大切にします。

私たちは、技術革新の著しい世界のエレクトロニクス業界で生き残っていくため、過去の常識や成功体験をこえて、革新的な発想や行動を称賛します。

### 3. 私たちは、多彩な個性を大切にします。

私たちは、基本的人権を尊重し、さまざまな文化や生活習慣の違いをこえて、グループの英知を結集し、世界のお客様から高く評価される独自の価値を創造します。

### 4. 私たちは、社会的な責任を大切にします。

私たちは、自分の仕事や行動に責任をもち、信頼をいただいている株主やお客様・協力会社、そして事業を営む国および地域社会に対し、正直かつ公正に対処します。また、環境問題への取り組みはグループ存続の条件と認識し、積極的に行います。

## ◆タムラグループ行動規範

「タムラグループ行動規範」は、以下の17項目について、項目毎に基本方針および代表的な行動規範を示したものです。

### タムラグループ行動規範

1. お客様の信頼と満足の獲得
2. 株主等経営を支援していただく皆様からの信頼の獲得
3. 基本的人権の尊重
4. 安全で健康的な職場環境
5. 自由な競争及び公正な取引
6. インサイダー取引の禁止
7. 不適切な接待及び贈答の禁止
8. 公的機関との不適切な取引及び不適切な政治献金の禁止
9. 安全保障輸出入管理関連法令の遵守
10. 知的財産権及びノウハウの創出、保護と活用
11. 反社会的行為への関与の禁止
12. 競業及び利益相反行為の禁止
13. 適切でタイムリーな情報開示
14. 情報（企業情報・個人情報等）の適切な保護及び管理
15. 会社資産の保護
16. 地球環境の尊重
17. 国際社会との協調及び地域との共生

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ [タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品](#)

▶ [新卒採用情報](#)

▶ [CORPORATION REPORT](#)

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.

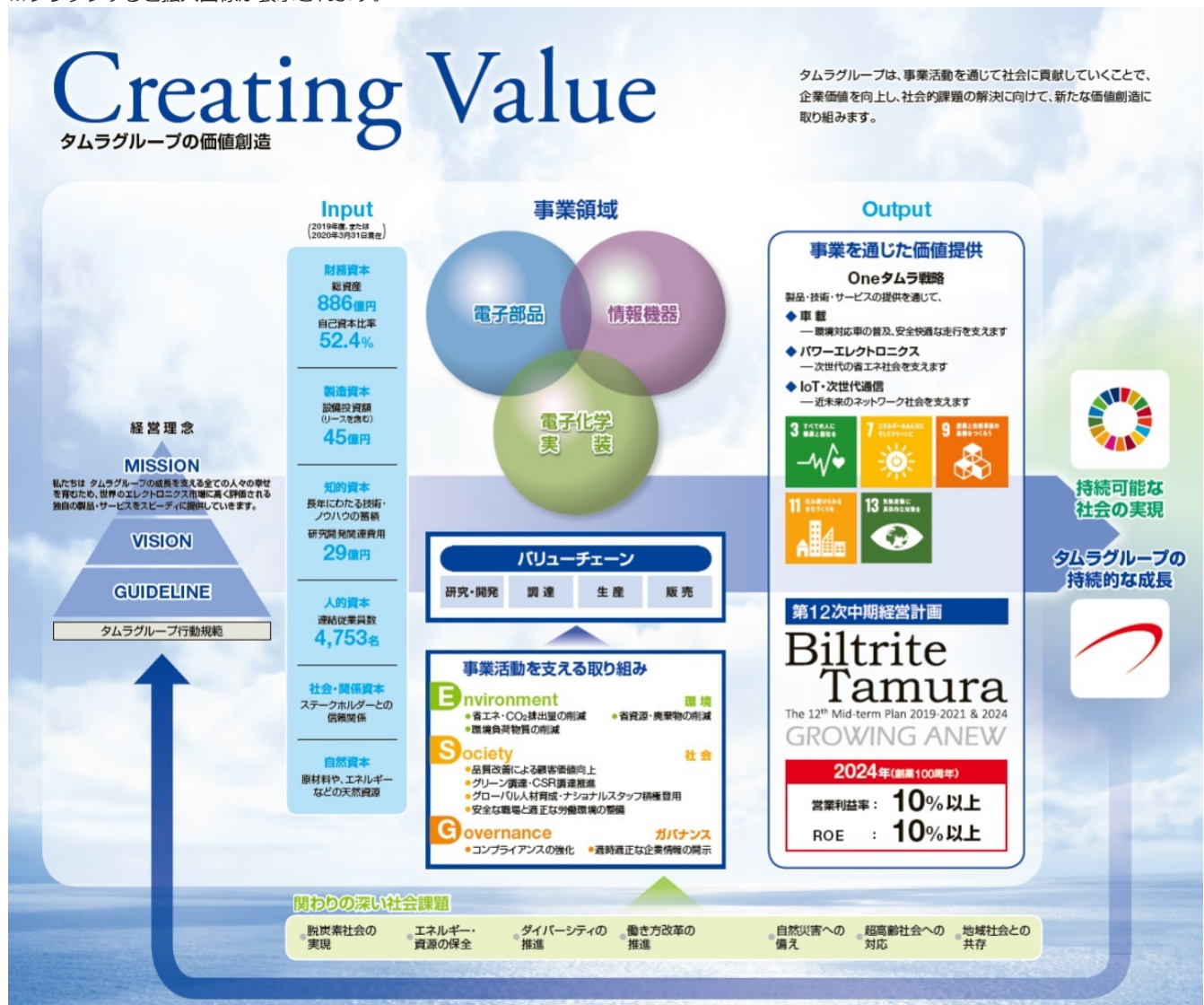
トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	

[トップページ](#) > [CSR](#) > タムラグループの価値創造

## タムラグループの価値創造

タムラグループは、事業活動を通じて社会に貢献していくことで、企業価値を向上し、社会的課題の解決に向けて、新たな価値創造に取り組めます。

※クリックすると拡大画像が表示されます。



## ピックアップ



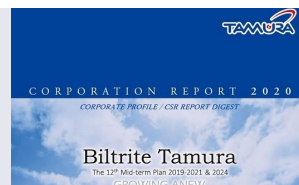
▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	

タムラグループのCSR	CSR活動実績	
-------------	---------	--

[トップページ](#) > [CSR](#) > タムラグループのCSR

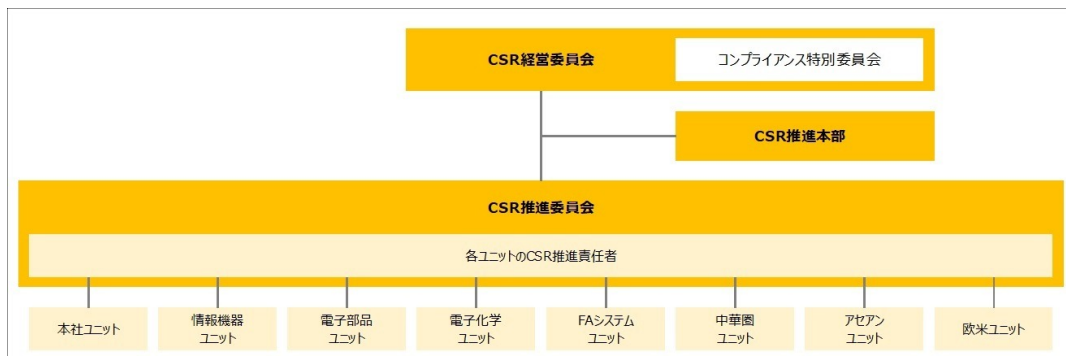
## タムラグループのCSR

私たちは、タムラグループミッションを事業活動の中で実現することが、タムラグループのCSR（企業の社会的責任）だと考えます。そのためには、私たち一人ひとりがCSRを理解し行動していくことが大切と考え、推進活動を積極的に行っています。

### CSR推進体制

CSR経営委員会（委員長：代表取締役会長）をトップとしたCSR推進体制を構築し、主にコンプライアンス・企業倫理、危機管理、情報管理、人権・労働、環境・品質、社会貢献の6つの分野に取り組んでいます。またCSR経営委員会の中に重大なコンプライアンス問題が発生した場合に対応にあたるコンプライアンス特別委員会を設置しています。

#### ■ CSR推進体制(2020年4月1日現在)



#### ■ タムラグループの主要なステークホルダー





## 国連グローバル・コンパクトへの参加

タムラグループは、国連グローバル・コンパクトの10原則を支持することを表明し、2008年に署名いたしました。人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止の4分野10原則に関するコミットメントをタムラグループ行動規範に反映し、活動を継続しています。

国連グローバル・コンパクトへの取り組みについては、[こちらをご覧ください](#)。



## SDGsへの取り組み

タムラグループは、2015年に国連総会で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を長期的な視点で国際社会から求められる重要な課題と捉え、SDGsの考え方を経営に統合し取り組みを進めています。

### ◆基本方針の設定

「タムラグループ行動規範」を改定し、SDGsをグループ全体で取り組むべき課題と位置づけ、その基本方針を定めました。さらにサステナビリティ戦略を掲げ、2019年4月からスタートした第12次中期経営計画にSDGsを組み込んで推進しています。

#### SDGsの基本方針（タムラグループ行動規範）

持続可能な社会の実現とタムラグループの持続可能な発展を両立させることが、タムラグループの社会的責任（CSR）であると捉え、SDGsを社会的課題に関する世界の共通言語として認識し、SDGsがもたらす事業機会とその達成に向けて企業が果たすべき責任を理解するとともに、製品・サービス・技術と事業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。



#### サステナビリティ戦略

- ・社会課題解決による事業成長  
各事業の持つコアコンピタンスに磨きをかけ、社会課題の解決につながる製品・ソリューションの開発・提供を行います。
- ・脱炭素社会の実現への貢献  
事業活動の省エネ推進・CO<sub>2</sub>削減に取り組みます。
- ・非財務情報の開示  
ステークホルダーの情報ニーズに適切に対応し、企業価値向上と信頼される会社を目指します。

### ◆社内浸透

グループ全従業員がSDGsを自分ごととして理解し、取り組んでいくために、様々な社内浸透策を推進しています。

#### SDGsメールマガジン

SDGsの17ゴールと169ターゲットを解説し、タムラグループの取り組み事例を紹介する全19回のメールマガジンを配信しました。メルマガ配信後のアンケートでは、SDGsへの理解を深めることができ、今後の取り組みのヒントを得られたなどの感想が寄せられ、従業員のSDGs認知度は97%に達しました。



### 社員食堂でサステナブル・シーフード導入

東京事業所・坂戸事業所の社員食堂で、2020年1月より定期的に、サステナブル・シーフードを使用したメニューを提供しています。海洋環境や水産資源に配慮して漁獲、または養殖された持続可能な水産物の国際認証「MSC」「ASC」を取得した食材であるサステナブル・シーフードを選ぶことで、SDGsの一つ「海の豊かさを守ろう」に貢献し、漁獲量を守る生産者を支援する取り組みです。現在、社員食堂にサステナブル・シーフードを導入している企業は、日本では8社程度（2020年3月時点）とみられますが、先進導入企業のパナソニック株式会社様をはじめ、日本での普及を推進する公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）様、認証を取得していただいた給食会社の株式会社はな籠様のご協力のもと、導入が実現しました。



### SDGs研修

国内・海外関係会社の責任者・管理者を対象としたSDGs説明会を実施、グループ全体でSDGsに取り組むことの意義について理解の促進を図りました。またCSR推進委員向けに、リコージャパン株式会社太田康子氏をお招きし、「今こそSDGsで企業価値を上げよう」と題したご講演を実施、SDGs実践に活用しました。



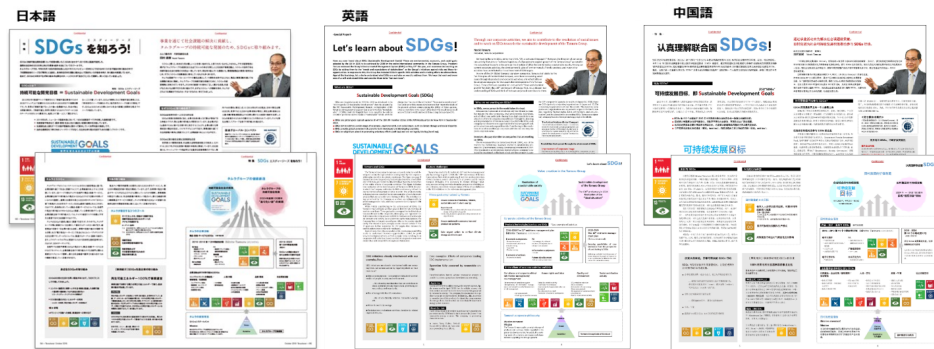
SDGs説明会



太田 康子氏ご講演「今こそSDGsで企業価値を上げよう」

### 社内報

2018年10月号より連載を開始し、継続的に啓蒙に取り組んでいます。海外拠点には翻訳版を配信し、社内掲示などを通じて社内浸透に取り組んでいます。



### SDGsバッジ・名刺

SDGsを常に意識して業務に取り組み、社外のステークホルダーに当社がSDGsの主旨に賛同し、積極的に取り組んでいることを表明するために、従業員にSDGsバッジを配付し、名刺にはSDGsのロゴマークを掲載しています。



## CSRの浸透

倫理や法令を順守し、ステークホルダーの要請等取り組むべき課題を日常の業務の中で実践することがCSR活動であり、役員、従業員一人ひとりがCSRを理解し、行動することの重要性を周知する取り組みを行っています。

### ◆コンプライアンス教育

CSR経営の実現には経営層だけでなく、従業員一人ひとりの意識と感度を高めることが不可欠であり、その重要な手段としてコンプライアンス教育を位置づけています。2019年度は以下の教育を実施しました。今後も継続的に取り組み、コンプライアンスへの理解の促進とリスクの低減を図ります。

#### 2019年度に実施した主なコンプライアンス教育

- ・研修教材（日本語・英語・中国語）を用いた小集団での討議形式研修を、国内外の拠点で実施
- ・安全保障輸出管理、下請法、不正競争防止法、情報漏洩防止等に関する集合研修

### ◆CSRメールマガジンの配信

身近なコンプライアンス違反のニュースやケーススタディ等をわかりやすく解説するCSRメールマガジンを月2回配信しています。

### ◆CSR情報サイト

タムラグループのCSR活動を理解する情報源として、2011年に社内ネットワーク上に「CSR情報サイト」を開設し、CSRの入門教育に活用してきました。2014年度には、日常業務において直面するもしくは直面する恐れのあるCSR上のリスク項目を抽出、Q & A形式で解説した「実践編」を制作し、社内でも共有しています。

## 社外からの評価

### ◆CSR企業ランキング 東洋経済新報社

「CSR企業ランキング」は、人材活用、環境、企業統治、社会性の「CSR評価」と財務データから「信頼される会社」を見つけるランキングです。

当社は2019年調査の「CSR評価」において、いずれの取り組みも5段階評価（AAA、AA、A、B、C）の最高位格付けを取得しています。

人材活用	環境	企業統治	社会性
AAA	AAA	AAA	AAA

#### ◆日経「SDGs経営」調査 日本経済新聞社

日経「SDGs経営」調査は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に企業がどのように取り組んでいるかを、「SDGs戦略・経済価値」「環境価値」「社会価値」「ガバナンス」の4つの項目で評価・格付けする調査で、2019年に初めて実施されました。

偏差値が50以上の企業に5段階で星3～5が付与され、当社は2020年調査において総合評価で3.5星と格付けされました。



#### ◆経済産業省「IT経営注目企業2018」に選定

経済産業省から、経営革新、収益水準・生産性の向上をもたらす積極的なIT利活用に取り組んでいる企業として、2018年5月、「IT経営注目企業2018」に選定されました。

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

## ピックアップ



▶ [経営理念](#)



▶ [タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品](#)



▶ [新卒採用情報](#)



▶ [CORPORATION REPORT](#)

## 国連グローバル・コンパクトへの取り組み

国連グローバル・コンパクトの10原則			タムラグループの方針	掲載箇所
人権	原則 1	企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである	「タムラグループ行動規範」に以下項目を明記 1. お客様の信頼と満足の獲得 として 紛争鉱物不使用の推進 3. 基本的人権の尊重 として 企業活動中での差別及び非人道的な扱いの禁止、結社の自由の尊重、強制労働・児童労働等の不当労働の禁止	<a href="#">タムラグループのCSR</a> ・コンプライアンス教育
	原則 2	企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである		<a href="#">取引先の皆様との関わり</a> ・CSR調達の推進 ・紛争鉱物問題に対する取り組み
労働	原則 3	企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである		<a href="#">従業員との関わり</a> ・人権の尊重・差別に関する方針 ・労働に関する基本方針 ・多様性の推進
	原則 4	企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである		
	原則 5	企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである		
	原則 6	企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである		
環境	原則 7	企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである	「タムラグループ行動規範」に 16. 地球環境の尊重を明記 「タムラグループ環境方針」を制定	<a href="#">取引先の皆様との関わり</a> ・グリーン調達の推進 <a href="#">環境経営</a> <a href="#">環境目標及び実績と評価</a> <a href="#">環境保全への取り組み</a>
	原則 8	企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである		
	原則 9	企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである		
腐敗防止	原則 10	企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである	「タムラグループ行動規範」に以下項目を明記 5. 自由な競争及び公正な取引 7. 不適切な接待及び贈答の禁止 8. 公的機関との不適切な取引及び不適切な政治献金の禁止	<a href="#">タムラグループのCSR</a> ・コンプライアンス教育 <a href="#">取引先様の皆様との関わり</a> ・CSR調達の推進



トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	

タムラグループのCSR	CSR活動実績				
-------------	---------	--	--	--	--

[トップページ](#) > [CSR](#) > [タムラグループのCSR](#) > [CSR活動実績](#)

## CSR活動実績

タムラグループでは、以下のようなCSR活動を推進しています。

※クリックすると拡大画像が表示されます。



### CSR目標と実績

タムラグループでは、環境・社会・ガバナンスに関連する、「環境」「人権・労働」「品質」「社会貢献」「コンプライアンス・企業倫理」「危機管理」「情報管理」分野のCSR推進に取り組んでいます。

※ SDGs（持続可能な開発目標）とタムラグループの取り組みの関連性を示すため、各項目に対応するアイコンを掲載しています。

- 自己評価
  - 達成率100%以上
  - 達成率80～100%
  - 達成率80%未満

■ 報告ページ  
 母子  
 TAMURA CORPORATION REPORT 2020で  
 報告している活動を示します。  
 Web:  
<https://www.tamura-ss.co.jp/csr/index.html>  
 一部を抜いて活動全般を報告しています。

項目	事業領域	2019年度目標	2019年度の主な実績	自己評価	2020年度目標	報告ページ
環境	● 環境負荷低減の提供	● プレミア環境貢献製品 売上比率:21%	● 20%【目標未達成】	☀	● プレミア環境貢献製品 売上比率:22%	母子:19・20ページ Web: ● 環境経営 ● 環境目標及び実績と評価 ● 環境貢献製品 ● 環境保全への取り組み
	● 環境負荷低減の抑制、削減	● 環境負荷低減 2005年度比原単位 60%削減	● 58%【目標未達成】	☀	● 環境負荷低減 2005年度比原単位60%削減	
	● 省エネルギー、 省資源の推進	● 電気使用量 2005年度比14%削減	● 16%【目標達成】	☀	● CO <sub>2</sub> 排出量:2013年度比7%削減	
社会	● ISO14001統合認証 取得の推進	● 環境法規制遵守	● 環境法規制違反なし	☀	● 環境法規制遵守	
	● 人事制度・人材育成	● グローバル人材の育成	● 経営層の育成研修導入（現在経営層・次世代若手選抜） ● 海外研修の継続実施	☀	● グローバル人材・経営層の育成 ● 人事制度の改定	母子:21・22ページ Web: ● 人権・労働 ● サプライチェーンマネジメント
	● 働き方改革	● 労働環境の整備 ● ヘルスケアの充実	● 勤務場所・時間・自由度を高めるICTインフラ整備 ● 勤務時間・インターミット制度の導入 ● 労働管理研修、ストレスマネジメント研修実施 ● 有給休暇取得の促進（前年度比+1.1%） ● ストレスチェック、定期的なストレスチェックの実施	☀	● 労働環境の整備 ● RPA （Robotic Process Automation） 導入による業務効率向上 ● ヘルスケアの充実	
品質	● 多様性の推進	● 女性活躍推進行動計画の 策定	● 一般社員向けキャリアデザイン研修、 女性のキャリアデザイン職業会議実施	☀	● 女性活躍推進行動計画の実践	
	● 安全衛生推進	● 安全衛生推進	● 安全衛生社内巡視、交通安全講習会の実施	☀	● 安全衛生推進	
	● CSR関連の推進	● 紛争絶滅対応	● 取引先様への使用状況調査実施 ● 「調達ガイドライン」に沿った契約締結の推進 ● 紛争絶滅不使用 ● 社会的勢力排除	☀	● 紛争絶滅対応	
ガバナンス	● 高品質な製品の提供	● 品質教育体系の整備・拡充	● デザインレビュー実践研修、デザインレビューのレビュー研修、 人海迷防止手法講習、仕事の教え方講習実施 ● 品質月間初日に品質担当執行役員からメッセージ伝達 ● タムラグループ品質推進大会の開催	☀	● 品質教育体系の整備・拡充 ● 品質月間における品質向上啓蒙活動 ● タムラグループ品質推進大会の開催	Web: ● 品質・サービス ● サプライチェーンマネジメント
	● グリーン調達推進	● グリーン調達基準の更新 ● 製品含有化学物質管理の 強化	● グリーン調達基準の更新 ● 製品含有化学物質法規制の制定、改定候補の共有化推進	☀	● グリーン調達基準の更新 ● 製品含有化学物質管理の強化	
	● 継続性のある 社会貢献活動の実施	● 各種寄付活動 ● リサイクル資源 回収活動の推進	● 各種寄付活動 ● バングラデシュにおけるドロッピングセンター事業支援 ● 使い捨てコンタクトレンズ返却回収、 古本寄付、使用済み切手回収活動の推進 等	☀	● 各種寄付活動 ● リサイクル資源回収活動の推進	母子:22ページ Web: ● 社会貢献活動
ガバナンス	● 地域共生、 ボランティア活動の 実施	● ものづくり教室開催 ● インターンシップ、 職業体験学習受け入れ ● 地域共生、 ボランティア活動の実施	● ものづくり教室開催 ● インターンシップ・職業体験学習受け入れ ● 各事業所近隣、福祉施設等での活動の推進、 非営利プロジェクトへの参加 等	☀	● ものづくり教室開催 ● インターンシップ・職業体験学習 受け入れ ● 地域共生、ボランティア活動の実施	
	● 文化、芸術、スポーツ 振興の実施	● スポーツ振興	● 女子サッカーチーム（ちばレアルエルフェン埼玉）への協賛	☀	● スポーツ振興	
	● 法令、ルール遵守の 推進	● コンプライアンス教育の 推進	● 安全危機輸出管理、下請法、不正競争防止法、情報漏洩防止等 に関する集合研修 ● 研修教材を用いた小集団での討議形式研修 ● 身近なコンプライアンス違反のニュースやケーススタディ等を わかりやすく解説するメールマガジン配信	☀	● コンプライアンス教育の推進	母子:22ページ Web: ● タムラグループのCSR ● コンプライアンス
ガバナンス	● CSRの浸透	● SDGs浸透の継続	● SDGs浸透の継続 ● CSR講演会、社内報等によるSDGsの社内浸透 ● 東京事業所・坂戸事業所社員食堂で サステナブルシーフードを導入	☀	● SDGs浸透の継続	
	● 危機管理の強化	● BCP（事業継続計画） 文書の定期・臨時の見直し ● 防災訓練の実施	● 新型コロナウイルス対応 ● 事業継続計画（BCP）を策定 ● 国内各事業所にて、避難訓練、安否確認訓練を実施	☀	● 新型コロナウイルス対応 ● BCP文書の定期・臨時の見直し ● 防災訓練の実施	母子:21ページ Web: ● リスクマネジメント ● 人権・労働
	● 情報管理体制の強化	● 情報管理体制の強化	● サイバー攻撃や情報漏洩防止のための ネットワークセキュリティの強化	☀	● 情報管理体制の強化	Web: ● リスクマネジメント ● コーポレート・ガバナンス
ガバナンス	● 適時適切な企業情報 開示の推進	● Webサイトによる 適時適切な企業情報開示	● Webサイトによる適時適切な企業情報開示	☀	● Webサイトによる適時適切な 企業情報開示	



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
環境経営	環境目標及び実績と評価	環境貢献製品	環境保全への取り組み	ZEBリーディング・オーナー	

[トップページ](#) > [CSR](#) > [環境経営](#)

## 環境経営

タムラグループは、環境方針にSDGs(持続可能な開発)を追加し継続的な改善活動により環境負荷の低減に取り組むとともに、持続可能な社会づくりへの貢献を目指しています。

### タムラグループ環境方針

#### 環境理念

タムラグループミッションである「私たちは、タムラグループの成長を支える全ての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます」に基づき、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を推進し、全ての企業活動において環境との調和を図ります。

#### 重点施策

SDGs(持続可能な開発目標)やパリ協定をはじめとするグローバル目標を認識し、事業の継続的な成長を目指して、タムラグループの事業である電子部品、電子化学材料、はんだ付装置、情報機器関連の設計・開発・製造・サービス活動において、環境マネジメントシステムを運用し、資源の有効活用、汚染の予防及び法規制等を順守すると共に、その継続的な改善を図り、次に示す環境保全活動を重点的に実施します。

1. 環境貢献製品を提供します。
2. 環境負荷物質を抑制し、削減します。
3. 省エネルギー、省資源を推進します。



### 環境マネジメントシステムの統合

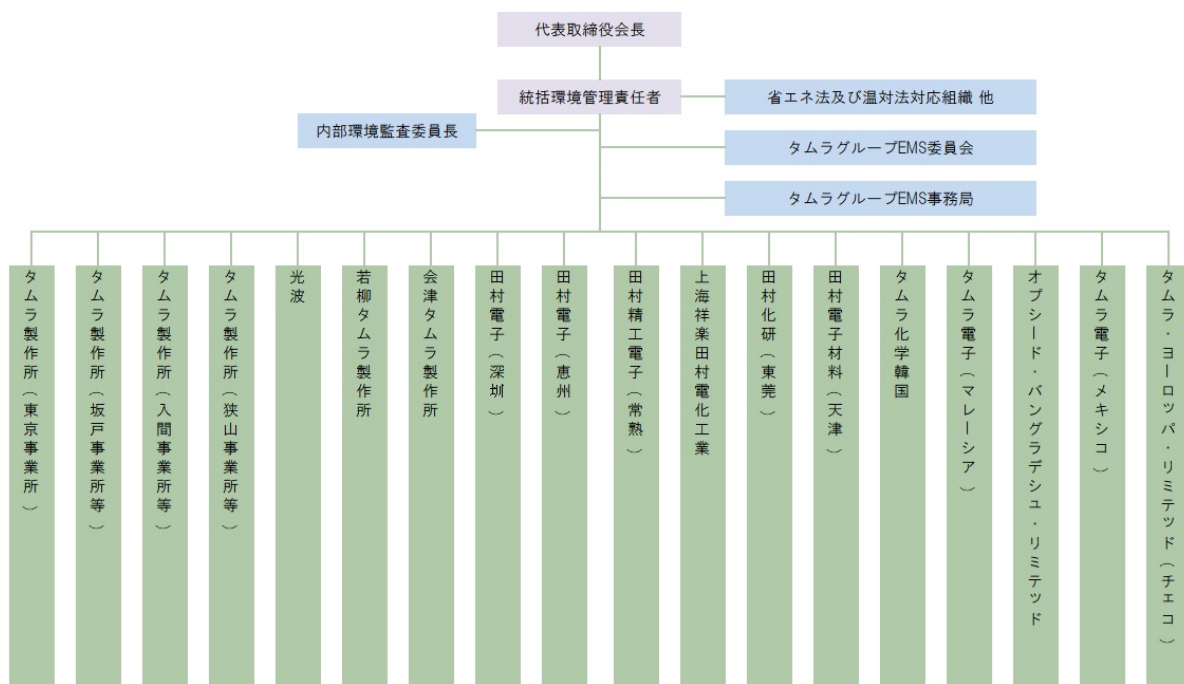
タムラグループは、2006年度より、グローバルに統一した環境マネジメントシステムを構築し、2019年度までに15社22サイトを統合し、タムラグループ全体の環境パフォーマンスの向上、環境ガバナンスの強化に取り組んでいます。

## 推進体制

タムラグループは、代表取締役会長をトップとし、環境マネジメントシステムを管理するため、統括環境管理責任者を設置し、各サイトの事業部門の責任者を委員とした「タムラグループEMS委員会」を組織しています。

タムラグループEMS委員会は、システムの運用に関わるコミュニケーションの向上や水平展開、グループ全体の環境パフォーマンスの改善を推進しています。

■推進体制図（2020年4月1日現在）



## タムラグループISO14001認証証明書

タムラグループISO14001認証証明書は [こちら](#)をご覧ください。

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
環境経営	環境目標及び実績と評価	環境貢献製品	環境保全への取り組み	ZEBリーディング・オーナー	

[トップページ](#) > [CSR](#) > 環境目標及び実績と評価

## 環境目標及び実績と評価

タムラグループでは3つの共通目標、「環境貢献製品売上比率の拡大」「環境負荷物質の削減」「電気使用量の削減」を掲げ、環境保全活動に取り組んでいます。

### タムラグループ目標及び実績と評価

タムラグループでは環境方針で重点施策に掲げた3項目を「環境貢献製品の売上比率の拡大」「環境負荷物質の削減」「電気使用量の削減」の3つの共通目標として環境保全活動に取り組んでいます。2019年度は、「電気使用量の削減」の目標を達成したものの、「環境貢献製品の売上比率の拡大」「環境負荷物質の削減」はわずかに目標未達成となりました。現在取り組んでいる環境負荷物質の適切な管理やプロセス改善、作業の見直しに取り組めます。

#### ■ 2019年度 タムラグループ目標と実績

	環境目的	2019年度目標	2019年度実績	2020年度目標
I	環境貢献製品の売上比率の拡大	環境貢献製品の売上比率 プレミアム環境貢献製品：21%	20 %	22 %
II	環境負荷物質の削減	化管法※対象化学物質 2005年度原単位比：60%削減	58 %削減	60 %削減
III	電気使用量の削減 (CO <sub>2</sub> 排出量の削減)	電気使用量 2005年度比：14%削減	16 %削減	CO <sub>2</sub> 排出量 2013年度比：7 %削減

※：【化管法】特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

### 温室効果ガスの削減目標

タムラグループでは、脱炭素社会への貢献に向けて2013年度からCO<sub>2</sub>の排出係数の変動を考慮して電気使用量を指標とし、2020年度において2005年度比15%削減を掲げて推進、2019年度にて前倒しで達成しました。

このため、SDGs（持続可能な開発目標）やパリ協定を始めとする新たな社会的枠組みを踏まえ、新たな目標を設定しました。

今回は、パリ協定の「2℃未満目標」に則り、2030年度の温室効果ガスを2013年度比21%以上削減、再生可能エネルギー導入を推進するため、2030年度の導入量を2019年度比2倍以上にする目標を設定しました。

タムラグループは、持続的な成長と持続可能な社会の実現に向け、SDGsに掲げられた社会課題の解決と脱炭素社会への貢献に取り組んでまいります。

#### 温室効果ガス削減目標

- ・温室効果ガス排出量※：2030年度**21%以上削減**（2013年度比）

#### 再生可能エネルギー導入目標

- ・再生可能エネルギー導入量：2030年度**2倍以上**（2019年度比）

※・Scope 1（自社での燃料使用や生産プロセスからの直接排出）、Scope 2（自社が購入した電気や熱の使用による間接排出）を対象。

- ・新工場に係る排出量は基準年含む過去年度へ上乗せし、事業開始後の削減努力を適切に評価。



・排出係数は、契約に基づいて購入した電力の排出係数（毎年変動）

## タムラグループ環境負荷の概況

タムラグループは、事業活動における環境負荷を定量的に把握し、プレミアム環境貢献製品の開発をはじめ、生産性の向上や物流の効率化など、事業活動のあらゆる場面で、環境負荷の低減に取り組んでいます。

### ■ 2019年度環境負荷の概況



※海外工場も同一基準で管理しており、本数値は海外分を合算した数値です。

### ■ 環境負荷の経年変化

	INPUT		
	2017年度	2018年度	2019年度
電 気	55,860 MWh	52,600 MWh	51,000 MWh
都 市 ガ ス	58 千m <sup>3</sup>	59 千m <sup>3</sup>	55 千m <sup>3</sup>
ガ ソ リ ン	184 kl	171 kl	171 kl
重 油	41 kl	37 kl	6 kl
軽 油	121 kl	75 kl	38 kl
用 紙	894 万枚	880 万枚	818 万枚
用 水	174 千m <sup>3</sup>	183 千m <sup>3</sup>	158 千m <sup>3</sup>
化管法対象物質	184 t	180 t	159 t
集 計 対 象 サイト	24 サイト	22 サイト	22 サイト

	OUTPUT		
	2017年度	2018年度	2019年度
CO <sub>2</sub> 排 出 量	36,940 t-CO <sub>2</sub>	34,400 t-CO <sub>2</sub>	33,000 t-CO <sub>2</sub>
排 水	160 千m <sup>3</sup>	158 千m <sup>3</sup>	149 千m <sup>3</sup>
廃棄物等総排出量	1,865 t	1,659 t	1,495 t
再 資 源 化 量	996 t	835 t	726 t
最 終 処 分 量	227 t	112 t	164 t
集 計 対 象 サイト	24 サイト	22 サイト	22 サイト

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
環境経営	環境目標及び実績と評価	環境貢献製品	環境保全への取り組み	ZEBリーディング・オーナー	

[トップページ](#) > [CSR](#) > 環境貢献製品

## 環境貢献製品

タムラグループでは、製品のライフサイクルを見据え、環境影響の最小限化に取り組むとともに、プレミアム環境貢献製品の開発・提供を通じて地球環境への貢献を目指します。

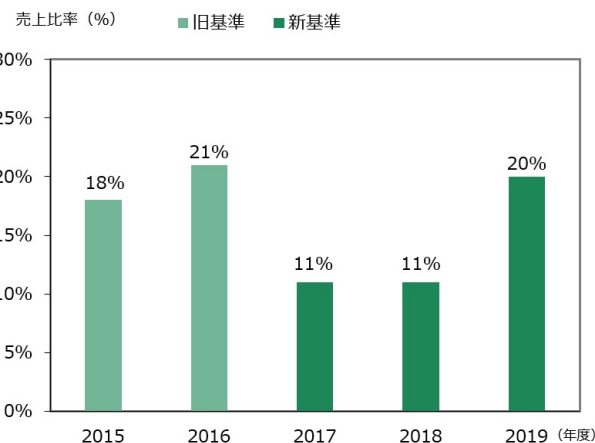


タムラグループは、従来からお客様や社会の環境負荷低減に貢献する製品を「プレミアム環境貢献製品」（当社独自基準で評価）としており、2017年4月からは従来の基準に加え、社会的課題の解決に資する製品（CSV）の視点を追加するとともに、自社の収益向上にも資する製品を認定しています。

[プレミアム環境貢献製品の詳細はこちらをご覧ください。](#)

2019年度は、プレミアム環境貢献製品の売上比率21%を目標に売上拡大に取り組み、わずかに目標未達成となりました。  
さらなる開発・提供を通じて環境負荷の低減に貢献していきます。

■ プレミア環境貢献製品売上比率



## プレミアム環境貢献製品の紹介

タムラグループでは、開発・設計段階で製品環境アセスメントを実施し、環境影響の最小限化に取り組むとともに、プレミアム環境貢献製品の開発・提供を通じてSDGs（持続可能な開発）への貢献を目指しています。

### ◆オープン型大電流センサ L40S、L51Sシリーズ

L40S、L51Sシリーズは、太陽光発電、風力発電などの再生可能エネルギー及び蓄電システムなどのエネルギー管理システム向けのオープン型大電流センサです。

温度補償回路により、-40℃～105℃といった広い温度範囲で、1%のリニアリティ誤差と0.05%/℃の出力温度特性を実現し、過酷な自然環境下でも高精度にシステムを制御するのに適しています。また、シールド技術により、dV/dtなどの耐ノイズ性は当社従来品比で3倍以上を実現しています。さらにL51Sは、ケース構造の設計を工夫することで、従来品と比較して充填剤の量を20%削減し、環境負荷低減に貢献しています。

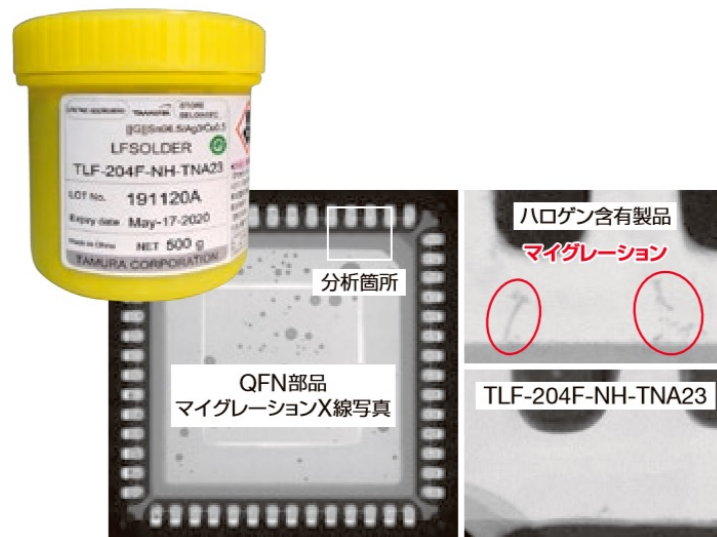


L51S(左)、L40S(右)

#### ◆5G（第5世代移動通信システム）対応溶剤ペースト TLF-TNA23シリーズ

急速に整備が進む5Gの基地局は、多くが屋外・高所・寒冷地の厳しい環境下に設置されており、制御装置が故障すると関連する全ての無線装置に影響が及ぶ可能性があるため、使用される溶剤ペーストには非常に高い信頼性が求められます。

TLF-TNA23シリーズは、特殊なハロゲンフリー技術により実装箇所が吸湿してもマイグレーションが発生し難い性能を有しています。また、ラインナップには、高電圧による熱衝撃にも耐え得る高強度（クラック抑制）合金の#287組成と組み合わせた製品も取り揃えています。環境に優しいハロゲンフリー、鉛フリー製品です。

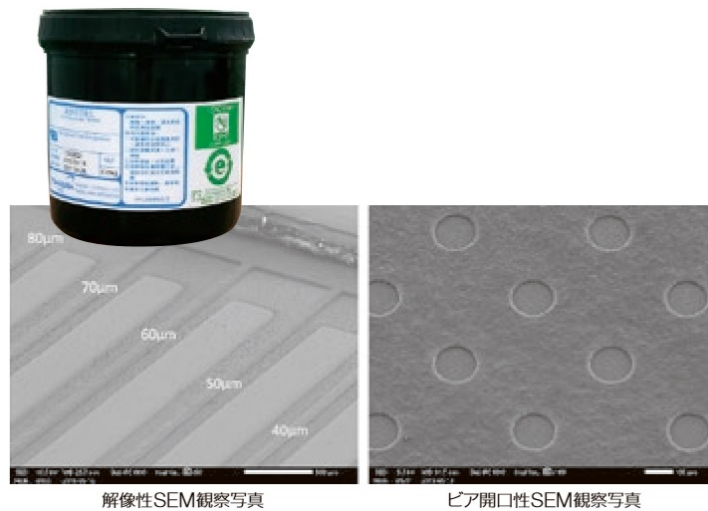


#### ◆スマートフォン向けリジッド基板用黒色溶剤レジスト APB-200シリーズ

スマートフォンのさらなる高機能・軽薄化に伴い、プリント配線板の高集積・高密度化が進んでいます。

黒色写真現像型溶剤レジストAPB-200シリーズは、基板作成時の露光工程において、当社従来比1/3以下の低露光（100mJ/cm<sup>2</sup>）と高解像性能を達成、高密度プリント配線板工程に必須とされるダイレクトイメージング露光プロセスで高い生産性と優れた解像性を実現しました。

また、光の反射を抑えた外観のため、外観自動検査において高い視認性を有し、高密度部品実装に優れた適合性を示します。環境に優しいハロゲンフリー製品です。



解像性SEM観察写真

ピア開口性SEM観察写真

#### ◆可搬型DECT規格インターカムシステム

「可搬型DECT規格インターカムシステム」は、これまで培ってきた可搬型インターカムシステムの技術を継承し、新たなDECT規格に準拠したタムラの新しいデジタルワイヤレスインターカムです。

直感的に使用できる操作性はそのままに、利便性がさらに向上しました。子機を10台接続する場合、従来機（YFP-1821B）は3台必要でしたが、本機（MK-H96）では1台で接続可能になりました。また、通信距離が短い場合は、RF Power設定機能により、省電力化と他者にとって妨害となる電波の抑制を行うことが可能になりました。

項 目	ポータブルコントローラの 従来機との比較
消費電力	約12%削減
部品点数	約37%削減
体 積	約65%削減
質 量	約65%削減

※条件：子機10台接続



ポータブルコントローラ(MK-H96)



子機(MK-B96)

#### その他のプレミアム環境貢献製品

- ▶ 電子部品
- ▶ 電子化学材料
- ▶ 実装装置
- ▶ 情報機器

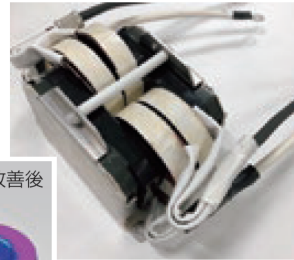
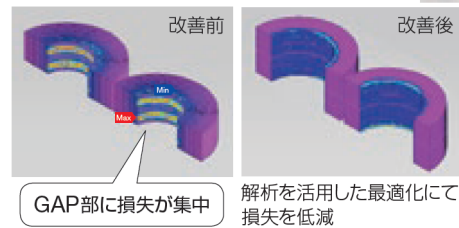
### その他のプレミアム環境貢献製品

#### 電子部品

##### ◆共振し、臨界モード用高効率・高性能高周波リアクタ

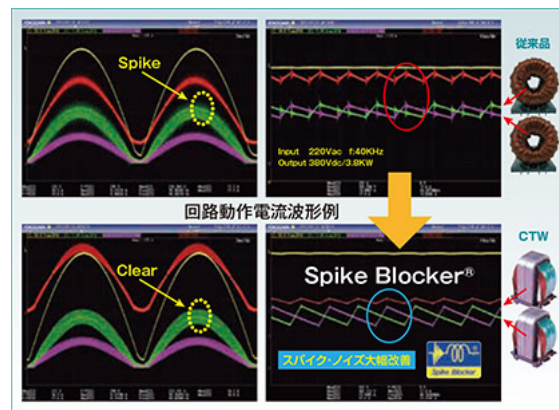
エネルギー、空調等様々な分野において共振回路や臨界モード等リアクタの損失が増大する回路が使用される事例が増えています。本製品は高周波の損失を極限まで抑えるため、コアは低損失フェライトコアを、巻線にエッジワイズを採用し高周波ロスを低減しています。更にギャップを分割することでギャップからの漏れ磁束によるロスを低減しており、そのギャップ構成を検討するにあたり磁場解析を有効に活用しました。このようにリアクタの構造・構成を検討することにより、更なるロス改善、省エネルギー化に貢献しています。

### コイル損失比較(解析)



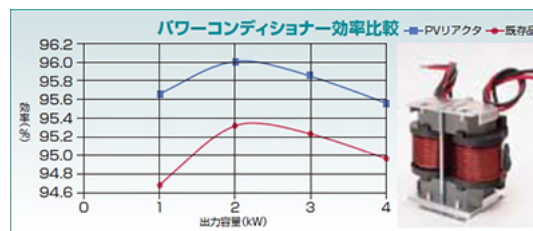
### ◆PFC用高効率・低コスト・高性能リアクタ CTWシリーズ

あらゆる産業分野において、省エネルギー化の動きが年々活発になっています。CTWシリーズは、さまざまな機器の省エネルギー化を実現するために使用される、PFC (Power Factor Correction/力率改善)回路用の部品として開発したタムラ独自の製品です。その特長として、1) Hybrid技術及び構造の最適化：異素材鉄心の組み合わせによる特性の最適化、主材料である電線と鉄心以外の使用材料を最小限に抑えることにより、省資源化、省エネルギー化に貢献します。2) Spike Blocker®技術：スパイク・ノイズを最小限に抑える（右図）ことにより、周辺回路部品を削減し、省資源化、省エネルギー化に貢献します。



### ◆太陽光発電向け高性能PVリアクタ

太陽光発電を行う際の電力変換装置（パワーコンディショナー）には、その電力変換効率をたとえ僅かでも向上させるための最新技術が盛り込まれています。その電力変換装置に搭載されるリアクタをPVリアクタとして標準化されたトータル108種のバリエーションにてカタログ化しました。その特徴は、1) 異素材コアを組み合わせたHybrid技術、2) スパイクノイズを最小限に抑え、変換装置のEMC対策に貢献するSpike-Blocker技術、3) 2つのMPPTを1台のリアクタで機能させるCB-Reactor技術があり、装置のセット効率向上に貢献しています。このPVリアクタはタムラが自信を持ってお届けする世界標準リアクタです。



### ◆大電流対応クロズドループ型電流センサ/S30, S42シリーズ

全世界で急速に拡大を続ける再生可能エネルギー市場（風力発電、太陽光発電）において、発電設備に使用されるDC/AC変換制御、供給電流監視用に数千アンペアクラスの高精度・高信頼性電流センサが求められています。

S30、S42シリーズはそのニーズに対応するため、従来品よりも大幅な低オフセット化、低温度ドリフト化、dv/dt出力誤差低減と合わせてコア形状最適化および薄型化により20%軽量化を実現しました。



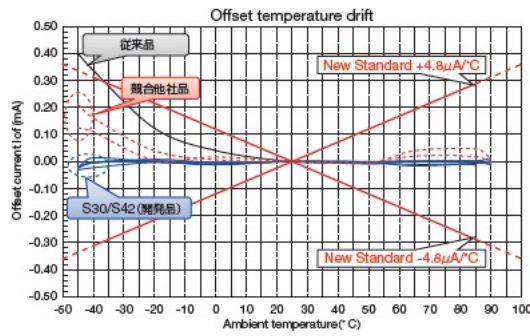


S42シリーズ(1000A)

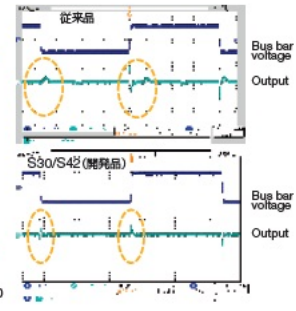


S30シリーズ(2000A)

### Low offset drift

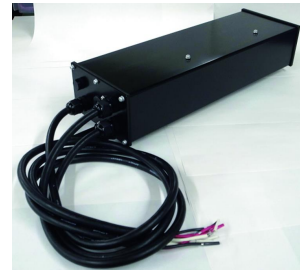
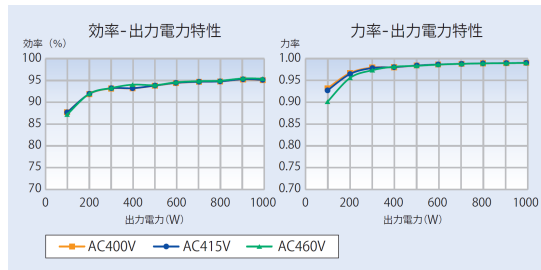


### Low dv/dt error



### ◆kW級超高効率電源

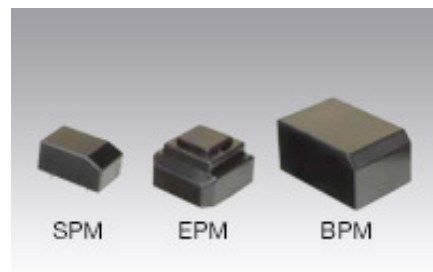
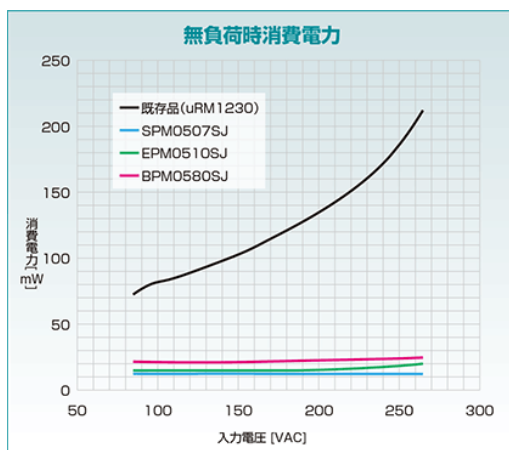
サッカー、野球などの大型スポーツ施設にはAC400V系の交流電源が供給されているものが多数あります。これまではダウントランスを使用し、AC400VをAC200Vまで降圧させて使用していますが、ダウントランスの損失が加わることで大幅な効率低下（90%程度）や、重量も大きくなるなど多くのデメリットがありました。本製品はダウントランス不要でAC400Vを直接制御し、さらに幅広い出力範囲で高効率・高力率を実現した製品です。



### ◆電源モジュール（SPM、EPM、BPMシリーズ）

省エネルギー化の法律規制強化が、世界的に進んでいます。また、エコ特性を付加価値とする電気製品も拡大しており、電源の省エネルギー化要求は高まる一方です。

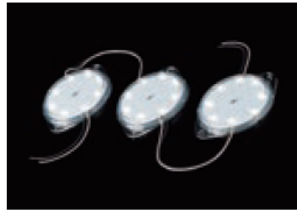
高効率電源モジュール（SPM、EPM、BPMシリーズ）は、無負荷時の消費電力特性と、軽負荷時（製品の待機状態）の効率特性を、大幅に向上させたモジュールです。お客様の「業界最高水準の省エネルギー製品を、短期間で開発したい」という要求に対応し、使用電力量の削減と開発工数の削減に貢献します。



### ◆超薄型看板用LEDモジュール「シャイニングソレイユ」

「シャイニングソレイユ」は、薄型片面看板用のLED光源です。両面看板用のLED光源「シャイニングアクシス」同様に光波独自の光学設計により、超薄型看板厚（30ミリ）まで対応可能な光源になります。「シャイニングソレイユ」は片面看板用で超薄型に特化したLED光源でありながら発光ムラを抑えるため、微細加工技術を用いた光学レンズを採用し均一な発光を実現しました。既存の薄型看板厚30ミリ程度に使用されている導光板光源と比較し、重量を約60%軽減したため、搬入・設置までの省エネ・環境貢献にも繋がります。

製品画像



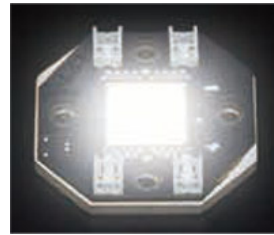
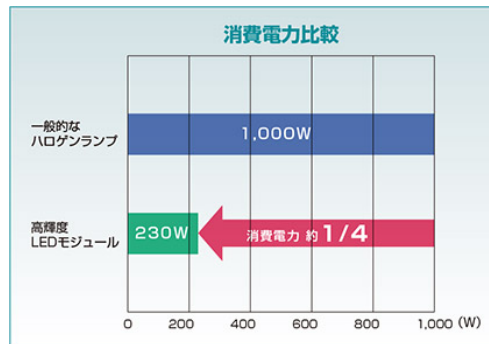
設置状態画像



#### ◆ハロゲンに代わる高輝度LEDモジュール P-LEDシリーズ

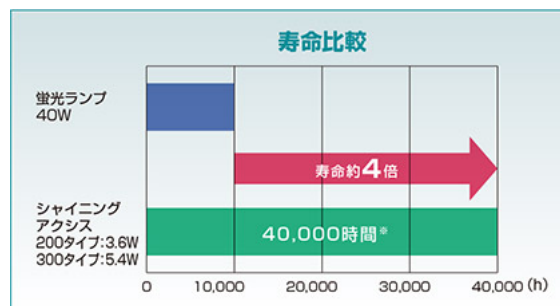
高輝度ハロゲンランプと代替可能なLED集積光源を実現しました。

LEDならではの長寿命・高効率の特長を有しており、既存のハロゲンランプのような照らされて熱く感じる赤外線放射もありません。また、独自の高放熱構造により、高密度・大電流での動作を可能にし、今までのCOBパッケージでは不可能であったハロゲンランプを代替可能な性能を実現しています。



#### ◆看板照明 薄型両面看板用光源モジュール シャイニングアクシス

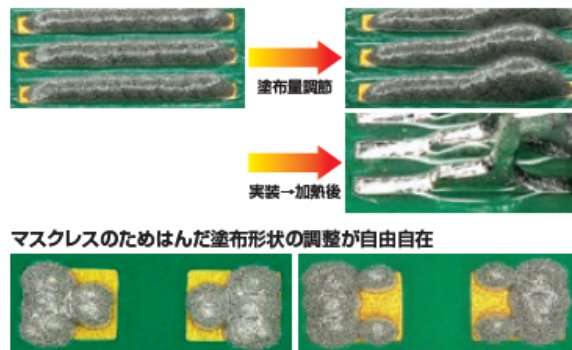
「シャイニングアクシス」は、薄型両面看板用のLED光源です。光波独自の光学設計で超薄型の看板厚（60ミリ）まで対応可能な光源になります。従来、薄型の両面看板には導光板方式の光源が採用されており、発光効率も悪い上、高い初期投資費用が問題点でした。一方で看板の薄型化が進み、その市場ニーズと従来光源の課題解決が可能な側面照射方式で、且つ均一面発光が可能なLED光源需要が急速に高まっています。光波独自の光学設計を駆使した特殊レンズが採用されているアクシスは、薄型看板の発光ムラを極力抑え、また、従来よりもワンランク上の防沫設計（IP×4）を実現した新しいLED光源です。また、2ラインナップの組み合わせにより、多種多様なサイズの看板に対応可能なフレキシビリティを備えています。長い看板市場での経験を活かし、施工を更に容易にするための接続用オプションパーツも同時に商品化しました。



※Ta=25° C 全光束初期値70%時

### ◆ジェット対応Pbフリーソルダーペースト「JDS204F-MJ21-HF」「JDS204G-MJ21-HF」

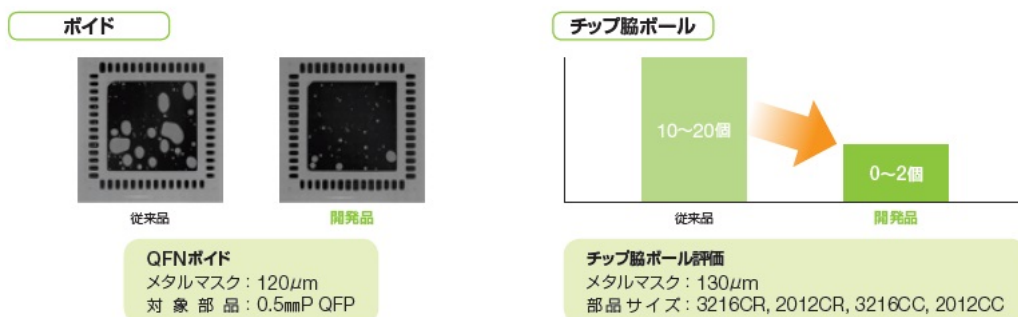
本製品は、Pbフリーに代表されるSAC305のはんだ組成を使用し、かつ、JPCA-ES01規格で定められた「ハロゲンフリー」に対応しています。既存の印刷工法では位置合わせの難しいFPC基板、従来の印刷機では印刷難度の非常に高いキャビティを有する基板や立体的な基板へのはんだ供給といった用途において、非接触のはんだ塗布工法としてジェットディスペンス工法導入の検討が進められています。現在「JDSシリーズ」は、塗布径に合わせて2種類のソルダーペーストを製品ラインナップ化し、ジェットディスペンスにおける吐出安定性と飛び散り（サテライト）低減に対応します。非接触／マスクレスの工法のため、従来の工法では必須であったマスク洗浄工程も削減できるため、製品、工法の両面で環境に配慮された製品です。



### ◆ハロゲンフリー対応汎用型ソルダーペースト「TLF-204-HF35」

本製品はPbフリーのはんだ組成を使用し、かつ、JPCAES01規格で定められた「ハロゲンフリー」に対応した環境貢献型のソルダーペースト製品です。

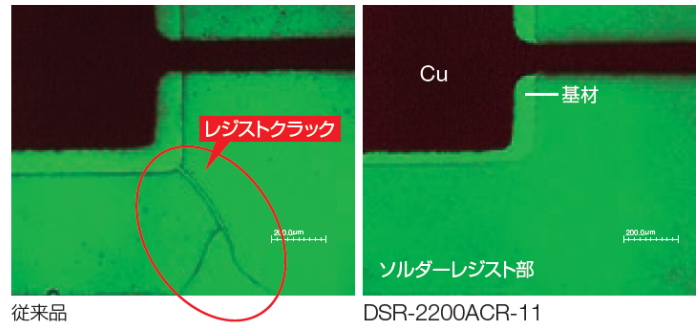
従来のハロゲンフリー製品では、作業特性が劣ることが課題となっていました。本製品は、高い信頼性と作業特性の両立を実現しました。市場では微細部品の搭載が増える中でリードレス部品でのボイドやチップ脇ボールが課題となっており、この課題に対して、実現困難であったハロゲンフリータイプにおいて当社比で50%以下の低減を達成しています。幅広い顧客のニーズに対応する製品として拡販してまいります。



### ◆車載用高信頼性・耐クラック性ソルダーレジスト「DSR-2200ACR-11」

環境対応車（ハイブリット自動車、電気自動車等）の拡大に伴い、制御に必要となる電子制御ユニット（ECU）の車1台辺りの搭載数は増加傾向にあり、省スペース、軽量化のためにはこれらECUが、より厳しい高温環境下に設置されることが想定されます。そのため、ECUに使用されるプリント基板用のソルダーレジストにも高温環境下への耐久性向上が求められます。本製品は、従来品よりも高温耐久性と低弾性特性（柔軟性）を向上させることで、高温環境を想定した-40℃⇔+125℃の冷熱サイクル試験において、ソルダーレジスト中のクラック発生を大幅に抑制し、従来品と比較して20倍以上のサイクル数寿命を達成しました（当社試験基板評価結果）。また、柔軟性に優れることから湾曲させて搭載が想定される基板（リジッドフレキシ基板）にも適用可能であり、曲げて搭載することでの省スペース化にも貢献するハロゲンフリー対応品です。

## 耐クラック性試験結果(−40℃⇔125℃ 3,000サイクル後)

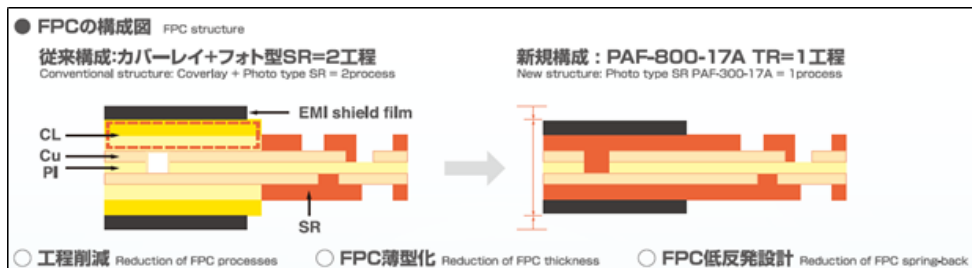
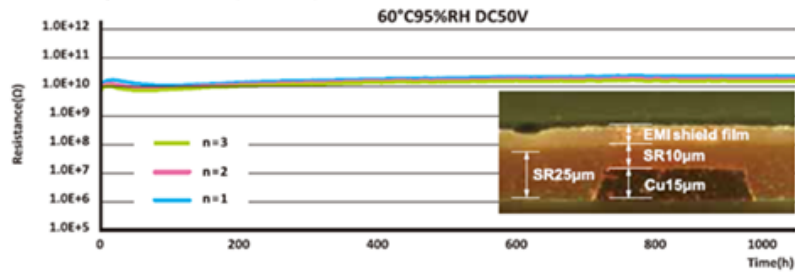


## ◆高信頼性低反発液状ソルダーレジスト「PAF-800-17A」

柔軟性を維持しながら狭ギャップでの絶縁信頼性を大幅に向上させたフレキシブルプリント配線基板（FPC）用のソルダーレジストです。標準的な厚み（銅配線上10～20μm）において、厚み方向に高い絶縁性を確保できることから、従来製品では困難であった電磁波シールドフィルムのソルダーレジスト表面への積層が可能となります。現在FPCでソルダーレジストと併用されるポリイミドフィルムを使用したカバーレイを置き換えることで、FPCの製造工程削減による省エネルギー化やFPCの薄膜化、更には低発特性を生かして薄型のディスプレイ周辺などの狭いスペースへのFPCの組み込みが可能な省スペース化にも貢献するハロゲンフリー対応品です。

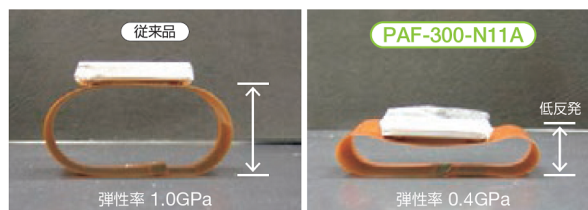
## 耐EMIシールド絶縁信頼性試験(SF-PC5600)

Reliability test of EMI Shield (SF-PC5600)



## ◆低反発フレキシブル基板向け液状ソルダーレジスト（PAF-300-N11シリーズ）

ハロゲンフリーで豊富なカラーバリエーションに対応したフレキシブル基板向けソルダーレジスト「PAF-300-N11シリーズ」。ハロゲンフリーで、VTM-0の難燃性をもっています。低弾性に設計することにより反発力が非常に低いため、FPC基板を折り曲げての組み込みが容易です。



## ◆フレキシブル基板用ソルダーレジスト PAF-300シリーズ

近年、スマートフォンやウェアラブル製品に代表される、携帯機器には小型化、薄型化、軽量化、高機能化の要求があり、プリント配線板にも薄型化、軽量化、高密度実装対応が要求されています。そのような電子機器には、益々フレキシブルプリント配線板（FPC）の使用が進んでいます。



PAF-300シリーズはFPC用ソルダーレジストとして必要な折り曲げ性等の機能だけではなく、デザイン性を求めるお客様の声に応え、「機能性・安全性とともに退色しない色彩の美しさ」を併せ持った「ハロゲンフリーで難燃性を有し柔軟性に優れた多色対応可能なソルダーレジスト」です。

- 【特徴】
- 環境対応：ハロゲンフリー

● 安全性対応：難燃性（UL対応）

● デザイン性対応：多色対応

● 機能性対応：折曲げ性・低弾性低反発・低反り性



実装装置

◆省エネリフローTNVシリーズのVersion UPモデル「TNV-Ver.Ⅲ」

省エネリフローTNVシリーズのVersion UPモデル、「TNV-Ver.Ⅲ」。今回の新製品では、装置内部の気体を効率的に誘導する対流制御技術を搭載しました。その結果、炉内へのフラックス付着の低減による清掃頻度低減、窒素消費量の低減が可能となりました。清掃周期を伸ばすことで、顧客における生産効率の向上、窒素消費量低減による省エネルギー化、清掃頻度低減による省資源化が実現します。

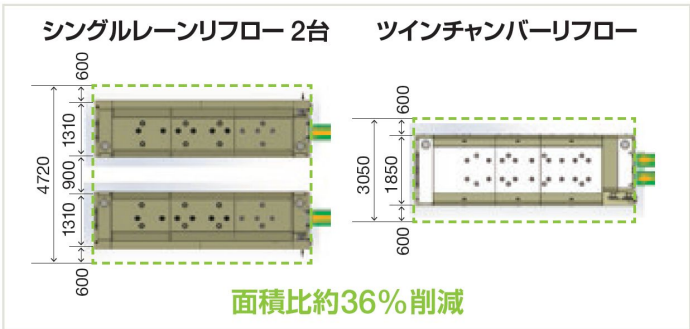


◆デュアルレーンツインチャンバーリフロー装置（TNV33-7010EMT）

デュアルレーンツインチャンバーリフローは、2列の独立駆動の搬送コンベヤを持ち、チャンバー内を仕切り2つの異なる温度プロファイルを設定可能な、2台のリフローを1台に集約した画期的ななはんだ付装置です。

シングルレーンリフローを2台設置するのと比較して36%の省スペースとなり、デュアルマウンタとの組み合わせで、お客様の効率的な生産ライン構築に貢献します。また、TNVシリーズで実績のある省エネ断熱構造で、シングルレーンリフロー2台と比較すると安定時電力約10%、積算電力約12%の消費電力削減を実現、さらには大量生産でもフラックスが詰まりにくく清掃しやすい構造で、メンテナンス性も向上しました。

既に50台以上を納品し、お客様から高い評価を得ております。





#### ◆省エネN2デュアルリフロー装置（TNV60-588EMD）

省エネリフローとして既に多くのユーザーにご使用いただいていますTNVシリーズに、新たにデュアル搬送機構のN2リフロー装置が加わりました。この装置は、2列の搬送コンベヤを持つことにより、1台で2台分の基板実装が可能となるリフロー装置です。TNVシリーズにて実績のある省エネ断熱構造を継承することにより、TNVシングル搬送2台と比較すると約45%の消費電力削減を実現しました。また、設置面積においても約45%の削減になります。車載関連ユーザー様を中心に導入していただいています。

製品名	安定時 消費電力	CO <sub>2</sub> 排出量 (年間)*	設置面積
TNV25-508EM	7.94kW	26,440kg-CO <sub>2</sub>	—
TNV25-508EM×2台	15.88kW	52,880kg-CO <sub>2</sub>	18.08m <sup>2</sup>
TNV60-588EMD	8.96kW	29,836kg-CO <sub>2</sub>	10.06m <sup>2</sup>

\*年間稼働条件：20h×300d、CO<sub>2</sub>排出係数：0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWh



## 情報機器

#### ◆DECT規格インターカムシステム

「DECT規格インターカムシステム」は、従来の「デジタルインターカムシステム（PHS規格）」に比べ利便性の向上と大規模なシステムの構築が可能となります。

#### 【システムの特徴】

- 放送局等のスタジオでの一般的な通話グループ数は3～4グループで、それを構築する場合、従来機では、2台必要でしたが本機（MK-C96）では1台で対応可能です。



アクティブアンテナ  
(MK-A96)

- アンテナ（MK-A96）1台当たりの子機収容台数が4⇒10台に増え、通信距離も3倍になったのでアンテナの設置数を大幅に削減することが可能です。
- 通信距離が短い場合は、送信電力を下げることで省電力化と他者にとって妨害となる電波の抑制を行います。



子機 (MK-B96)



メインコントローラ  
(MK-C96)

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT



トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
環境経営	環境目標及び実績と評価	環境貢献製品	環境保全への取り組み	ZEBリーディング・オーナー	

[トップページ](#) > [CSR](#) > 環境保全への取り組み

## 環境保全への取り組み



- ▶ 「ゼロカーボン埼玉」へのカーボンオフセットクレジットの寄付
- ▶ 坂戸事業所新棟における取り組み
- ▶ 事業活動
- ▶ リスク管理

### 「ゼロカーボン埼玉」へのカーボンオフセットクレジットの寄付

カーボンオフセットに係る埼玉県の取組「ゼロカーボン埼玉」に協力するために2019年11月22日に埼玉県に対し、埼玉県目標設定型排出量取引制度に基づくクレジット3,582 t を寄付しました。

埼玉県の実施に関する内容は、埼玉県のホームページ※をご覧ください。

タムラグループは、今後も持続可能な社会の実現に向け、SDGsに掲げられた社会的課題の解決と脱炭素社会への貢献に取り組んでまいります。

※：<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0502/zerocarbon-saitama.html>

上記URLのページ「1. 取組の概要」をクリックすると、取組の内容がご覧いただけます。



## 坂戸事業所新棟における取り組み

電子部品関連事業の事業再編にあたり、その中核拠点である坂戸事業所（埼玉県）を建て替え、2018年9月より稼働を開始しました。「環境と人にやさしい」をコンセプトに、大幅な省エネの実現による環境負荷低減と、働きやすく快適な職場環境づくりを目指した持続可能なオフィス棟です。耐震性も強化、災害時にも少ないエネルギー消費で事業運用が可能で、BCP（事業継続計画）にも寄与しています。



### ◆Nearly ZEBとして認定された環境棟

2017年度ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）実証事業において、建物のエネルギー消費量と、創エネによるエネルギー供給量の合計で正味75%以上の省エネを達成するNearly ZEBとして認定されています。

2019年度の太陽光発電による創エネを考慮した省エネ率は101%となり、「Nearly ZEB」（省エネ率75%以上）を達成しました。

### ZEB実現のための取り組み事項

- ・ 高性能の断熱材、高性能サッシを採用
- ・ 高効率ビルマルチ空調、全熱交換機、自動調光LEDを採用
- ・ 太陽光パネルで創エネ、運用はBEMSを利用し省エネ

### ◆埼玉県「彩の国工場」に指定

坂戸事業所は新棟のZEB認定をはじめ、工場見学の受け入れや「ものづくり教室」など、地域での社会貢献活動が評価され、埼玉県の2018年度「彩の国工場」に指定されました。



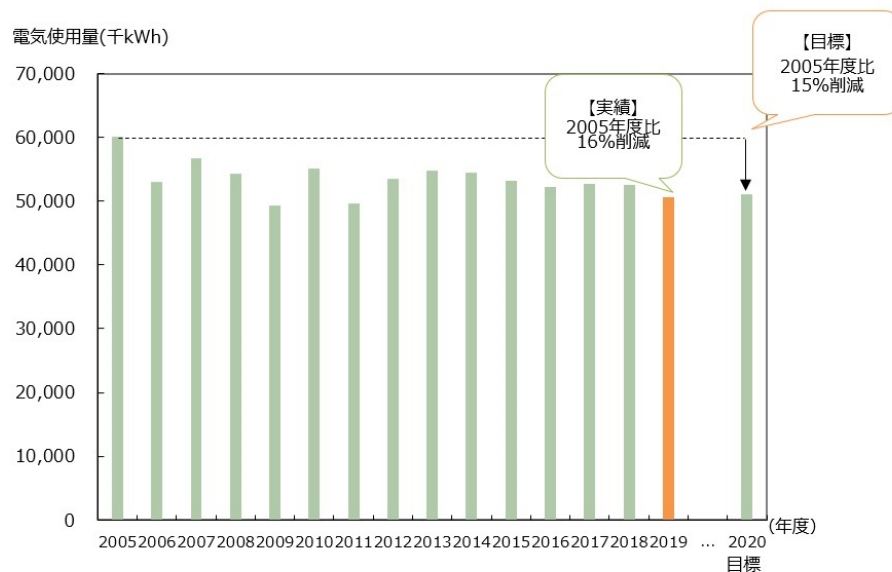
## 事業活動

タムラグループでは、事業活動を通じて地球温暖化防止に貢献するため、CO<sub>2</sub>排出量の削減および省エネルギー活動を推進しています。また、環境負荷物質を削減し、環境影響の最小化に取り組んでいます。

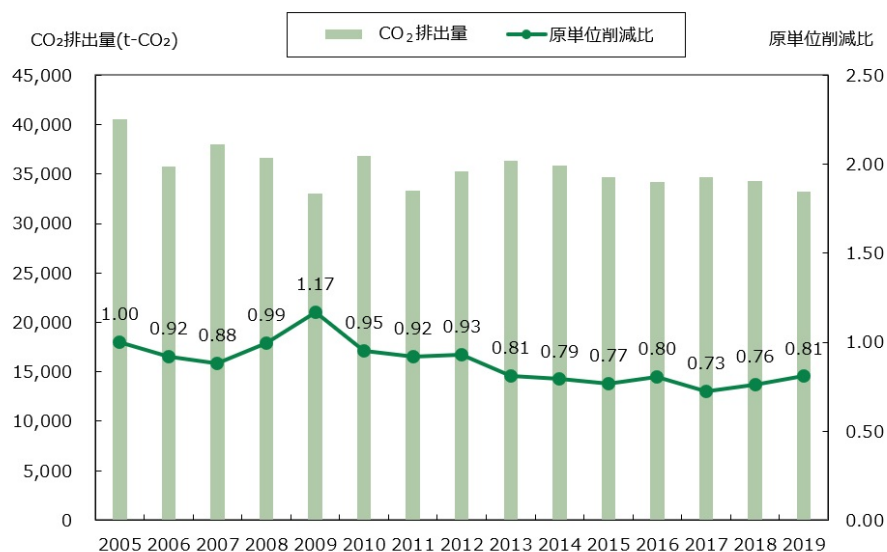
### ◆電気使用量の削減（CO<sub>2</sub>排出量の削減）

2013年度からCO<sub>2</sub>排出量の削減目標は、CO<sub>2</sub>排出量の約98%を占める電気使用量に着目し、目標設定を行い取り組みを推進しています。2019年度は、省エネ型設備への更新や運用改善の省エネ対策等を実施し、電気使用量を2005年度比14%削減の目標に対し、16%削減と目標を達成しました。引き続き省エネ対策を推進してまいります。

#### ■電気使用量



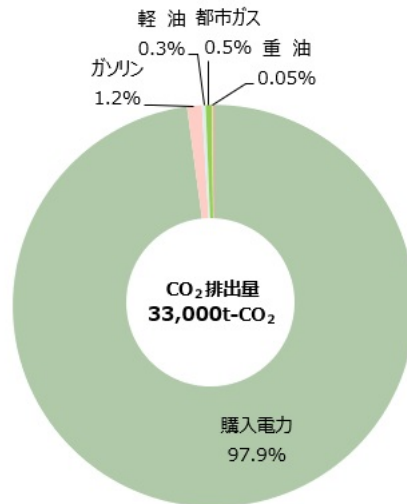
#### ■CO<sub>2</sub>排出量削減実績



#### ■CO<sub>2</sub>排出量内訳(2019年度)



## ■ CO<sub>2</sub>排出量の内訳（2019年度）



※：使用した係数について

電力のCO<sub>2</sub>排出係数：

国内「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」参照

海外「International Energy Agency Data Services 2005の数値」

参照

電力以外のCO<sub>2</sub>排出係数：

国内外共通「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」参照



太陽光発電設備の設置[坂戸事業所]



太陽光発電モニター[坂戸事業所]



太陽光発電設備の設置  
[会津タムラ製作所]



蓄電池の設置  
[会津タムラ製作所]



ソーラーLED外灯  
[田村化研（東莞）]



LED照明  
[オブシード・バングラデシュ・リミテッド]

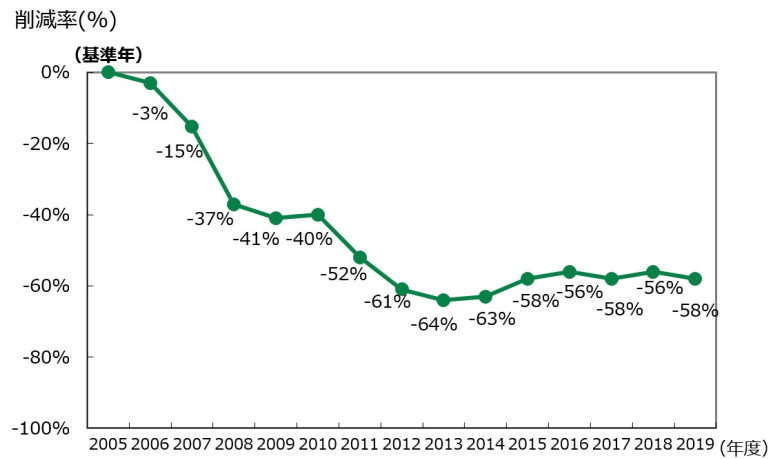
## ◆環境負荷物質の削減

2019年度は、売上金額原単位を指標とし、2005年度比60%削減を目標に環境負荷物質の削減に取り組みました。

2019年度は、わずかに目標未達成となりました。

現在、取り組んでいる環境負荷物質の適切な管理やプロセス改善、作業の見直しを引き続き推進します。

## ■ 環境負荷物質



排ガス処理装置  
[若柳タムラ製作所]



VOC排気浄化装置  
[上海祥楽田村電化工業]



VOC排気浄化装置  
[田村化研(東莞)]

## リスク管理

環境法規制の順守を徹底するとともに、事故および緊急事態を想定した教育や訓練を行うことで、事故の未然防止とリスクの最小化に取り組んでいます。

### ◆製品含有化学物質管理

タムラグループでは「タムラグループ製品含有化学物質管理ガイドライン」を2009年11月に制定し、製品含有化学物質管理に取り組んでいます。その後、2010年4月に国内の子会社を統合したために、タムラグループ全体を適用事業所とする管理体制への見直しを行いました。2011年11月に「製品含有化学物質管理組織図」を、また、2012年2月に「同管理細則」を制定し、新たな管理体制のもとで、推進を開始しました。

これに基づき、製品含有化学物質に関する法規制等の情報に基づくグリーン調達基準の見直し、グリーン調達の推進、製品含有化学物質に関する情報やデータのお客様への提供というような一連の業務を迅速かつ正確に進めております。

### ◆環境法規制順守状況

環境方針に従い、環境法規制等を順守することは、事業活動の基本と認識します。2019年度は、環境に重大な影響を与える事故及び緊急事態はありませんでした。

### ◆環境教育

環境負荷を継続的に改善するためには、従業員一人ひとりが理解を深め、自覚を持って業務を行うことが重要と考え、様々な環境教育を実施し、正しい理解と実践に取り組んでいます。



内部監査員教育

### ◆緊急事態対応訓練

海外を含めた各サイトでは、環境に影響を与える様々な緊急事態及び事故を想定し、日常点検及び設備のメンテナンスによる予防対策と、事故発生時の緊急対策の2つのリスク管理体制を構築しています。また、緊急事態及び事故を想定した基本的かつ具体的な初動手順を定め、毎年、訓練を実施するとともに、手順の有効性の確認、見直しに取り組んでいます。



排水設備対応訓練  
[坂戸事業所]



化学物質漏洩対応訓練  
[入間事業所]



化学物質漏洩対応訓練  
[狭山事業所]



消防訓練  
[若柳タムラ製作所]



化学物質漏洩対応訓練  
[田村電子（深圳）]



化学物質漏洩対応訓練  
[田村電子（惠州）]



化学物質漏洩対応訓練  
[上海祥泰田村電化工業]



化学物質漏洩対応訓練  
[田村電子材料（天津）]



消防訓練  
[タムラ化学韓国]



化学物質漏洩対応訓練  
[タムラ電子（マレーシア）]



消防訓練  
[タムラ電子（メキシコ）]



化学物質漏洩対応訓練  
[オブシード・バングラデシュ  
・リミテッド]

## ピックアップ



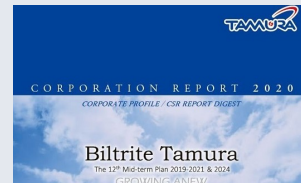
▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
環境経営	環境目標及び実績と評価	環境貢献製品	環境保全への取り組み	ZEBリーディング・オーナー	

[トップページ](#) > [CSR](#) > [ZEBリーディング・オーナー](#)

## ZEBリーディング・オーナー

タムラ製作所は、一般社団法人環境共創イニシアチブ（SII）が公募する「ZEBリーディング・オーナー」に申請し、2018年に登録されました。



「ZEBリーディング・オーナー」は、自らのZEB普及目標やZEB導入計画、ZEB導入実績を一般に公表する先導的建築物のオーナーのことです。登録された建築物のオーナーは、ZEBに関連する取り組みや、中長期のZEB導入計画と目標について情報発信することが期待されています。

坂戸事業所の事務棟は、建物のエネルギー消費量と、創エネによるエネルギー供給量の合計で正味75%以上の省エネを達成する「Nearly ZEB」として整備を行い、2018年8月に完成しました。

ZEBリーディング・オーナーの登録票は、[こちら](#)をご覧ください。

2019年度の太陽光発電による創エネを考慮した省エネ率は101%となり、「Nearly ZEB」（省エネ率75%以上）を達成しました。

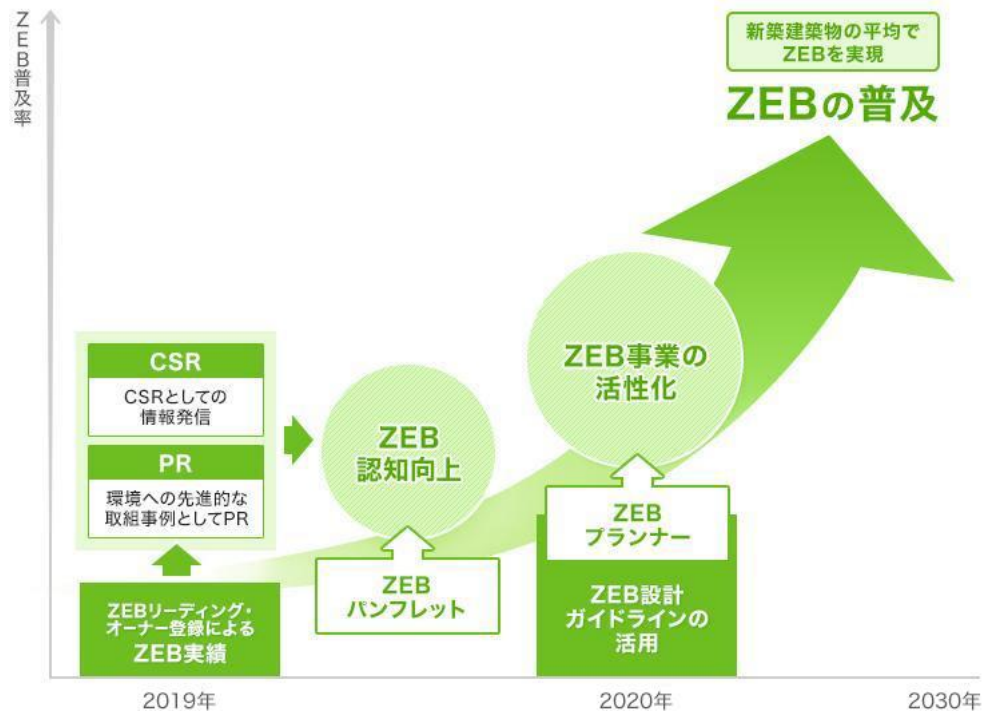
今後も、ZEBに関する取り組みの情報発信を通じて脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

### 【ZEB実現に向けた取り組み】

- ・高性能の断熱材、高性能サッシを採用
- ・高効率ビルマルチ空調、全熱交換機、自動調光LEDを採用
- ・太陽光パネルで創エネ、運用はBEMSを利用し省エネ



## ZEBリーディング・オーナー登録制度の目的



出典：SIIウェブサイト

## ピックアップ



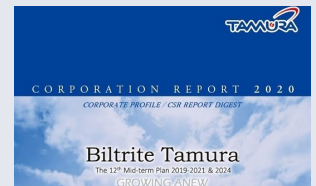
▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレ  
ミア環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.



トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
人権・労働	品質・サービス	サプライチェーンマネジメント	社会貢献活動		

[トップページ](#) > [CSR](#) > 人権・労働

## 人権・労働

タムラグループミッションの実現に向け、従業員自身が成長し、より大きな力を十分に発揮することができるよう、人事制度の整備や人材育成を実施するとともに、ワークライフバランスを重視した様々な取り組みを行っています。



### 人権

- ▶ [人権の尊重・差別に関する方針](#)
- ▶ [従業員についての考え方・方針](#)
- ▶ [人事制度・人材育成](#)

### 労働

- ▶ [労働に関する基本方針](#)
- ▶ [働き方改革への取り組み](#)
- ▶ [多様性の推進](#)
- ▶ [安全衛生](#)

## 人権

### 人権の尊重・差別に関する方針

タムラグループでは、「[タムラグループ行動規範](#)」を制定し、事業活動と職務遂行の上での行動や判断の基準としています。その中の "基本的人権の尊重" の基本方針として、企業活動の中での国籍、人種、民族、性別、年齢、宗教、信条、社会的身分、疾病および心身の障害等に基づく差別を禁止しています。また、細則として、いかなる差別的言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等の人権を無視する行為や、精神的・身体的強要、暴言による虐待などの過酷で非人道的な扱い等を禁止しています。

### 従業員についての考え方・方針

タムラグループは、従業員一人ひとりの「パートナーシップ」「革新する勇氣」「多彩な個性」「社会的責任」、そして「人間的な成長」を大切にするとともに、公正な視点で従業員を評価し、努力によって成果をもたらす人を最も称賛します。また、従業員の健康と安全のため、快適で能率的な職場環境を整え、一人ひとりのライフスタイルの充実を支援しています。

### 人事制度・人材育成

#### ◆人と組織を活性化する人事制度の運用

人事マネジメントの「育成」「配置」「処遇」という3要素を適正かつ効果的に運用し、人と組織の活性化を図るため、公正・公平な人事評価制度を運用しています。評価にあたっては、「行動特性評価」と「目標チャレンジ評価」を実施し、従業員の一人ひとりを公正な視点で評価します。さらに、人事評価の公平性・透明性を担保するため、管理監督者層には評価者研修を義務づけています。また、処遇にあたっては、年齢、学歴、性別などにとらわれず、従業員の職務・職責に基づきグレードの階層を定める職務グレード制を導入しています。

#### ◆「全員が主役のグローバル企業」を目指すグローバル人材の育成

従業員一人ひとりのグローバル人材としての成長期待を明確化し、また既に海外ビジネスで経験を積んだ従業員の貴重なスキルが会社の財産として公正に評価される仕組みを運用しています。

国内グローバル人材育成の一環として、階層別に種々の研修を実施しています。2013年度から新入社員全員を対象とした海外研修（中国・韓国）を実施しています。また、2010年度から、毎年継続して、国内従業員を対象に英語能力向上のため、TOEIC-IPテストを実施しており、受験者は、国内従業員の7割を超えています。

海外人材の育成については、タムラグループの経営理念をグローバルに展開することで、タムラグループとしての一体感を醸成し、ナショナルスタッフのモチベーションの向上させることを目的として、海外の各拠点にて経営理念研修を実施しております。また、活躍するナショナルスタッフが適切に評価され、成長できるよう、新たに経営理念をベースとした人事評価制度を導入し、管理職層に対し人事評価研修を実施致しました。また、海外現地法人でのナショナルスタッフの幹部への積極登用を進めており、2018年には海外現地法人管理職に占めるナショナルスタッフの割合が、約80%に達しました。



中国での人事評価研修

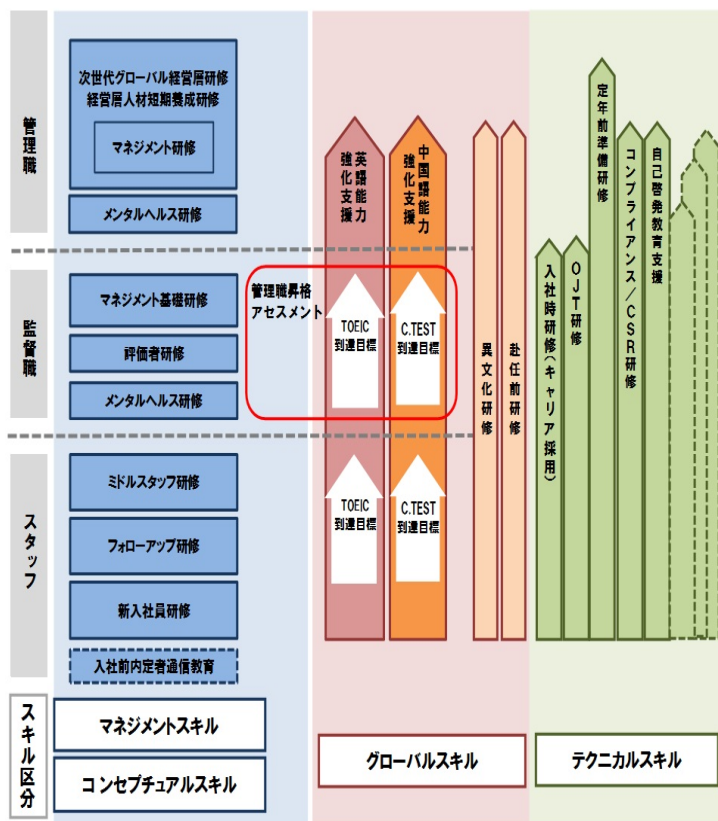
#### ◆経営層の育成（現在経営層・次世代若手選抜）

2019年より、事業の中核を担う執行役員、本部長クラスを対象に経営層研修を実施しています。戦略立案、事業マネジメント、リーダーシップに関する能力の向上を図り、より高いレベルでのマネジメントができるようになることを狙いとしています。同じく2019年より社外取締役 蓑宮武夫氏を塾長に迎え、次世代の経営幹部候補者を対象とした育成塾を開催しています。プログラムはマネジメント、経営学のみならず、心理学、歴史文化など、幅広い内容で構成されており、実学だけでなく教養も身に付けた人材を育成してまいります。これらの研修は、人脈を形成する場にもなっており、事業の枠を超えたつながりの構築・強化も目的としています。



#### ◆教育研修体系

タムラ製作所では、従業員の職務に必要な知識・技能の習得及び管理職、経営層育成のため、階層別スキル別の教育研修を実施しています。



## 労働

### 労働に関する基本方針

タムラグループでは、「[タムラグループ行動規範](#)」を制定し、事業活動と職務遂行の上での行動や判断の基準としています。その中の "基本的人権の尊重" の細則として以下の内容を規定しています。

- ・結社の自由の尊重：各国の法令に従った結社の自由と、労働組合への加入等の権利の尊重
- ・不当労働の禁止：強制労働、債務労働、奴隷労働、非自主的囚人労働、児童労働の禁止

### 働き方改革への取り組み

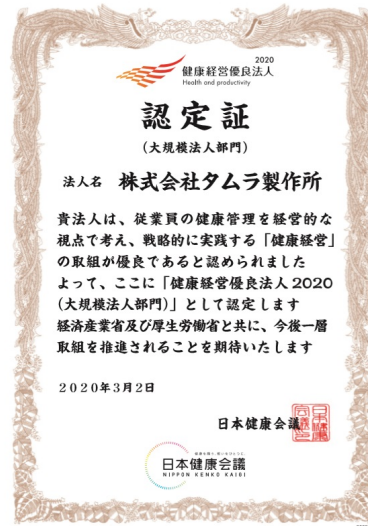
働き甲斐の向上と適正な労務管理を両立させるとともに、コミュニケーションを大切にする組織体制を築くことにより、ストレスが少なく快適に仕事に専念できる風土づくりに取り組んでいます。

#### ◆快適に仕事に専念できる労働環境の整備

働きがいの向上と適切な労務管理を両立させることにより、従業員が継続して快適に仕事に専念できる労働環境づくりに取り組んでいます。働きがい向上施策として 育児や介護、ボランティアなど多目的休暇や、時間単位での有給休暇を取得できる制度を導入しています。また、育児、介護、配偶者の転勤など一定の理由で退職した従業員を再び従業員として受け入れる制度を設けるなど、従業員の価値観や働き方が多様化する中で、仕事と家庭の両立支援を実施しております。労務管理の適正化に関しては、全事業所の管理監督職を対象に、労務管理研修及びストレスマネジメント研修を実施し、コンプライアンスに基づく労務管理の徹底とストレスの少ない職場環境の実現に向けた取り組みを推進しています。

2019年度は勤務間インターバル制度（当日終業から翌日始業まで一定時間を空ける制度）を新設すると共に、さらなる有給休暇取得率向上施策を実施しました。これらの活動が認められ、経済産業省より「健康経営優良法人2020（大規模法人部門）」の認定を受けました。タムラ製作所では、今後もコンプライアンスを基礎とした適切な労務管理を浸透させ、働きやすい職場風土を維持・向上するための施策を推進してまいります。





#### ◆ICT環境整備

雇用・働き方の多様化で、様々な状況下（場所、時間、距離）で行動する従業員が柔軟に働けるICT環境整備を推進しています。これまで一部の従業員にのみ適用していた在宅勤務制度を全社展開する計画を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として2019年度から前倒しで導入を行いました。クラウド環境でのデータ共有やWeb会議など、多くの従業員が自宅でも社内とほぼ同様の環境で業務できるようになっています。特に子供の学校臨時休校などにより自宅待機が必要となる従業員にとっては、子供のケアをしながら業務を行うことが可能になり、事業継続の観点でも有効です。

#### ◆業務効率向上

定型業務の工数削減を目的とし、パソコン業務のうち決まった操作を繰り返す「定型的な業務」を自動化するRPA（Robotic Process Automation）活用に取り組んでいます。まずは補助的な業務に導入し効果を確認しながら、全社に展開できるよう準備を進めています。働き方改革を進める上で、業務効率を向上させ定型業務から高付加価値業務へシフトする動きは欠かすことのできない要素であり、早期の本格導入を目指しています。

#### ◆メンタルヘルス対応

適正な職場環境を維持するために、管理監督者を対象にメンタルヘルス研修を実施し、メンタルヘルスケアに関する基本知識の習得および「心の不調者」の発生予防と早期発見を図りました。

また、健康管理の観点、および適切な初動対応のために、全従業員を対象とする産業医による面談と、専門カウンセラーによるストレスカウンセリングの場をそれぞれ月一回設けるとともに、社外の従業員支援プログラム（EAP）と契約し、従業員やその上司が、自ら利用できるサポート体制を整えています。従業員のストレスチェックは2016年度より実施しています。抽出された高ストレス者のうち希望者には産業医面談を行うとともに、組織単位での集団分析結果を各組織にフィードバックすることで良質な職場環境維持に努めています。

#### ◆グループ合同納涼祭の実施

従業員同士の親睦を深めることを目的に、隔年でグループ会社での合同納涼祭を実施しています。会場の装飾や飲食の内容から、有志の催し物や抽選会などのイベント、当日の司会進行に至るまで、従業員自ら企画・運営をしています。納涼祭には家族の参加も認めており、毎回大きな賑わいを見せる一大行事になっています。



タムラグループ合同納涼祭2019（2019年7月開催）

## 多様性の推進

タムラグループでは「タムラグループミッション」ガイドラインの1つとして「多彩な個性を大切に」と掲げています。ダイバーシティと多様なライフスタイルに対応できる体制を整備し、性別・国籍にかかわらず誰もが安心して、長い期間、仕事を続けられる職場環境づくりを目指しています。

#### ◆女性活躍推進

性別にかかわらず、優秀な人材の採用や登用、就業継続のための取り組みに力を入れています。女性活躍推進法への対応として、2021年度までの目標値と行動計画を制定しました。行動計画では、「人と組織の意識改革をはかる」「女性が活躍できる職場環境を作る」「女性のキャリアを支援する」「女性の積極的な登用を目指す」ことを定めました。2021年度末までに女性管理職割合6%を目指します。今後も人事制度の整備や啓蒙、教育など様々な施策を計画的に実行し、女性の活躍を推進してまいります。



#### 【2019年度実施内容】

- ・ 一般従業員を対象に、様々なライフイベントを考慮した自分なりの将来キャリアをデザインし、自らの行動計画を立て、実行し、継続して活躍するための基礎を築く研修を実施
- ・ 外部有識者を招いて、「働く女性のキャリアデザイン」に関する講演会を開催

#### ◆育児休業

従業員が利用しやすい育児休業の整備を順次進め、制度利用を積極的に推進しております。2013年度以降女性の育児休業の取得率は100%、男性の育児休業取得も進み、2019年度は73%でした（2018年度は76%）。また、女性の育児休業から復帰時の育児短期間勤務の利用率は2019年度100%（2018年度は100%）で、高い水準の制度利用を維持しています。

仕事と育児を両立しやすい環境整備の取り組みが評価され、次世代育成支援対策推進法に基づく「子育てサポート企業」（くるみんマーク取得企業）として、厚生労働大臣の認定を受けています。

#### ◆障がい者雇用と高齢者雇用

ダイバーシティ推進のため、障がい者雇用と高齢者再雇用に取り組んでいます。障がい者雇用は、2019年度には雇用率が2.1%（2018年度は2.27%）になりました。また、定年後の再雇用を希望される方は100%再雇用し、全従業員の5%を超えるなど、幅広く多様な人材の活用を図っています。

## 安全衛生

従業員の安全、健康を確保し、かつ適正な作業環境を形成・維持することは、企業が継続していくために最も重要なことです。そこで、労働安全衛生法に基づいて設置が義務付けられている事業所においては「安全衛生委員会」を設置して、労働災害の防止、交通事故の防止、公害の防止、火災防止に関する問題点を抽出し、対策を講じています。また、安全衛生管理の計画的な実施や、異なる事業所間での情報共有を行うなど、グループで統一した安全衛生管理を行うために、国内関連会社も含めたグループ安全衛生委員会を半期ごとに実施しています。

#### ◆災害に備えた取り組み

自然災害等を想定した各種訓練を実施しており、各事業所において避難訓練及び安否確認訓練を毎年行っています。社内イントラネットには、災害に備えて事業所ごとに避難経路やどの災害備蓄品がどこに収納されているかなどを明示したポータルサイトを開設し周知しています。

#### ◆交通安全の取り組み

万が一の事故対応に備えるとともに、運転者の安全運転配慮意識の向上を企図し、各事業所の全社用車にドライブレコーダーを設置しています。レコーダー設置後の交通事故及び危険運転は減少しており、効果を上げています。2019年度は、レコーダーで収集した危険運転状況の運転者へのフィードバック、自動車利用者を対象とした各事業所での交通安全教室や交通安全メールの配信に加え、Eラーニング方式のドライバー診断を導入し啓発活動を行いました。



#### ◆AED（自動体外式除細動器）の設置

タムラ製作所各事業所にAEDを設置し、定期的に使用訓練を行っています。近隣住民にも利用してもらえるよう、守衛所にもAED設置を掲示しています。



#### <自衛消防訓練審査会 準優勝>

タムラグループでは、火災発生の際の被害を最小限にとどめるため、消防法適用の各事業所に自衛消防隊を編成しています。東京事業所では消火栓を扱う訓練を積んだ従業員が、毎年地域の自衛消防訓練審査会に出場し、2019年度は1号消火栓操法の部で準優勝しました。



## ピックアップ





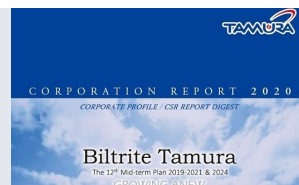
▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
人権・労働	品質・サービス	サプライチェーンマネジメント	社会貢献活動		

[トップページ](#) > [CSR](#) > [品質・サービス](#)

## 品質・サービス

独自の技術による高品質な製品の供給を通じて、お客様の満足度向上に取り組んでいます。



- ▶ [品質](#)
- ▶ [品質改善の取り組み](#)
- ▶ [お客様満足度向上](#)

### 品質

#### ◆タムラグループ品質方針

タムラグループでは、「タムラグループ品質方針」を制定して、グループ全体の品質の基本方針としています。

##### タムラグループ品質方針

###### 基本理念

顧客が満足する「価値」の提供  
「顧客の視点」での活動の展開

###### 品質方針

品質マネジメントシステムを構築し、継続的なマネジメントレビューをもってその有効性を維持向上させ、世の中に評価される高い品質の製品およびサービスを提供することにより、顧客の信頼と満足の向上に努め、社会に貢献します。



#### ◆品質保証体制

タムラグループでは、事業領域の異なるあらゆるお客様のご要望に対応するため、電子部品、電子化学実装、情報機器と事業特性に応じた品質保証体制を構築しています。また、全事業の品質担当責任者が出席する品質管理委員会を年8回開催し、グループの品質情報を共有すると共に、品質問題の予防措置に取り組んでいます。

#### ◆品質マネジメントシステム認証取得状況

タムラグループでは、製造を行っている事業所及び関連会社でISO9001を取得しています。ISO9001は日々の品質管理、品質改善、品質問題の未然防止等に活用しており、お客様にご満足いただける製品を提供するための品質マネジメント活動の要となっています。また、一部では車載向け製品のお客様に満足して頂くためIATF16949（自動車産業向け品質マネジメントシステム）を取得しています。

## ISO9001取得状況（2020年6月1日現在）

セグメント名	認証取得登録事業者名
電子部品関連事業セグメント	(株)タムラ製作所 電子部品事業本部 【坂戸事業所】
	(株)若柳タムラ製作所
	(株)会津タムラ製作所
	(株)光波
	田村（中国）企業管理(有)
	田村電子（深セン）(有)
	田村電子（惠州）(有)
	タムラ電子(マレーシア)(株)
	タムラ・ヨーロッパ・リミテッド 【チェコ】
	タムラ電子（メキシコ）(株)
	オブシード・バングラデシュ・リミテッド
	田村精工電子（常熟）(有)
	合肥博微田村電気(有)
	(株)韓国タムラ
	アースタムラエレクトロニック（ミャンマー）(株)
電子化学実装関連事業セグメント	(株)タムラ製作所 電子化学実装事業本部 【入間事業所/狭山事業所/児玉工場/名古屋営業所/大阪営業所】
	タムラ化学韓国(株)
	上海祥楽田村電化工業(有)
	田村化研（東莞）(有)
	田村電子材料（天津）(有)
	イーエスイー・インダストリーズ（タイ）（株）
	田村自動化系統（蘇州）(有)
情報機器関連事業セグメント	(株)タムラ製作所 情報機器事業部 【東京事業所】

## IATF16949取得状況（2020年6月1日現在）

セグメント名	認証取得登録事業者名
電子部品関連事業セグメント	田村電子（深セン）(有)
	田村電子（惠州）(有)
	田村精工電子（常熟）(有)
電子化学実装関連事業セグメント	(株)タムラ製作所 電子化学実装事業本部【入間事業所】
	上海祥楽田村電化工業（有）
	タムラエルソルド（有）

## 品質改善の取り組み

タムラグループは、「正しく立派な製品を作る」という方針の下、事業セグメントごとに最適な品質マネジメントシステムを構築すると共に、更なる顧客満足度向上を目指してさまざまな取り組みを行っています。

### ◆品質教育の実施

品質向上に欠かせない人材育成を重点課題と位置づけ、従業員一人ひとりの能力向上を図り、全社的な品質マネジメントシステムの運用レベルを高めるため、これまでの品質教育体系を2017年に再整備し、順次運用を開始しています。製品設計プロセスの改善を目的とした「デザインレビュー実践研修」「デザインレビューのレビューア研修」、製造プロセスの改善を目的とした「人為ミス防止手法講習」「仕事の教え方講習」の継続に加えて、2019年度は新入社員研修の見直しと共に、若手社員がQC検定取得に積極的にチャレンジするための学習サポートの仕組みを構築し運用を開始しました。引き続き階層、職種別教育のさらなる充実を図り継続的な品質改善活動に取り組んでまいります。



デザインレビュー実践セミナー



仕事の教え方講習

#### ◆手掛け改善活動

2013年より、国内の電子部品事業本部および関連会社の生産工場において、手掛け改善活動※を実施しています。年に2回拠点合同で活動報告会を行い、製品原価改善や、製造工程間の動線の見直しなどの成果事例を共有しながら改善を継続しています。

※手がけ改善活動：製品の生産プロセスにおいて、付加価値のない作業やムダを削減し、付加価値を与える要素である正味率を向上させる活動



2019年11月の報告会の様子

#### ◆品質推進大会

タムラグループでは、品質向上に取り組む意識を持続けるために、10月4日を「タムラグループ品質Day」と定め、毎年その時期に「タムラグループ品質推進大会」を開催しています。

2019年度は、グループの2部門による品質問題への対応発表、および外部講師を招いて講演会を実施しました。



## お客様満足度向上

#### ◆サプライチェーンマネジメントの展開（MAPS※システム拡充）

お客様からの「必要な時に、必要な物を、必要なだけ」という納品のご要望にお応えするために、国内外の営業・生産拠点に基幹業務を一括管理するMAPSシステムを導入しています。また、評価指標管理を継続実施し、活動安定化を図っています。あわせて海外主要拠点へのMAPS導入拡大を図り、業務の平準化とサプライチェーンマネジメントの強化に努めています。

※MAPS：Management Accounting Production Salesの頭文字からなるタムラグループのERPシステムの名称。

#### ◆展示会への出展

タムラグループでは、より満足いただける商品やサービスを提供するために、国内外の展示会に積極的に参加し、お客様とのコミュニケーションの強化に努めています。2019年度は、日本をはじめ、中国、台湾、韓国、マレーシア、タイ、アメリカ、ドイツで、自動車、再生可能エネルギー、半導体、電子機器、実装装置、放送機器等の分野の展示会に出展しました。



CEATEC 2019  
(日本・幕張メッセ)



NEPCON South China 2019  
(中国・深圳会展中心)



KOBAS 2019  
(韓国・COEX)



PCIM Europe 2019  
(ドイツ・ニュルンベルクメッセ)

## ピックアップ



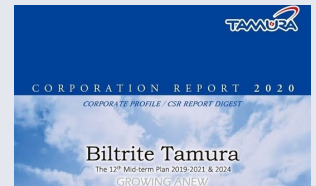
▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT



トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
人権・労働	品質・サービス	サプライチェーンマネジメント	社会貢献活動		

[トップページ](#) > [CSR](#) > サプライチェーンマネジメント

## サプライチェーンマネジメント

お客様に満足していただける製品をお届けするために、取引先の皆様と協力して、サプライチェーン全体で品質・環境・社会的責任への配慮に取り組んでいます。



- ▶ 購買方針（購買基本方針）
- ▶ CSR調達の推進
- ▶ グリーン調達の推進
- ▶ 紛争鉱物問題への取り組み
- ▶ 英国現代奴隷法への取り組み

### 購買方針（購買基本方針）

2007年3月に制定した「タムラグループ調達ガイドライン」の中で、「グローバルカンパニーとして世界的な視野で資材調達を推進し、タムラグループビジョンに理解を示し、継続的なパートナーシップを構築できる会社と共に利益創出を追求します」と掲げ、品質、環境、独自性など7つのポイントを「タムラグループ購買基本方針」としています。

#### タムラグループ購買基本方針

- (1)品質について、「品質第一」の認識を強く持ち、タムラグループの品質管理方針を理解して、安定した品質管理が実行される会社と取引します。
- (2)環境について、環境保護の世界的潮流を充分認識し、タムラグループグリーン調達基準を順守し、率先して環境に配慮した取組みができる会社と取引します。
- (3)市場の要求に対して、常に積極的な改善・改革が実施できる自主性のある会社と取引します。
- (4)専門メーカーとして他社には無い独自性を持った会社と取引します。
- (5)取引ルートの簡素化を推進します。
- (6)意見・提案・情報を積極的に提供し、熱意を持って活動する会社と取引します。
- (7)人材を会社の財産と考え、社員教育を熱心に行い、会社全体のレベルアップに努める会社と取引します。

### CSR調達の推進

タムラグループは、製品の製造から販売までの事業プロセス全体に対するステークホルダーの関心の高まりに応えるため、サプライチェーン全体でのCSRの取り組みを推進すべく、「タムラグループ調達ガイドライン」で上述の「タムラグループ購買基本方針」を示し、さらに以下の具体的推進事項に関し、取引先の皆様へご理解とご協力をお願いしております。[「タムラグループ調達ガイドライン」はこちらをご覧ください。](#)

#### 具体的推進事項

- (1) お客様の信頼と満足の獲得
- (2) 基本的人権の尊重
- (3) 安全で健康的な職場環境
- (4) 自由な競争及び公正な取引
- (5) インサイダー取引の禁止

- (6) 不適切な接待及び贈答の禁止
- (7) 公的機関との不適切な取引及び不適切な政治献金の禁止
- (8) 安全保障輸出入管理関連法令の遵守
- (9) 知的財産権及びノウハウの創出、保護と活用
- (10) 反社会的行為への関与の禁止
- (11) 適切でタイムリーな情報開示
- (12) 情報（企業情報・個人情報等）の適切な保護及び管理
- (13) 貸与資産の管理
- (14) 地球環境の尊重
- (15) 国際社会との協調及び地域との共生
- (16) マネジメントシステム

## グリーン調達推進

お客様に、環境に配慮した安全な製品をお届けするため、2002年に「タムラグループグリーン調達基準」を制定。環境保全活動に取り組む取引先の皆様からの、環境負荷が少ない部品や材料の調達を推進しています。また、環境マネジメントシステムの構築や「JIS Z 7201」等による化学物質管理システムの構築と含有化学物質の保証体制の構築、タムラグループが指定する環境管理物質の調査をお願いしています。「[タムラグループグリーン調達基準](#)」は[こちらをご覧ください](#)。

## 紛争鉱物問題への取り組み

コンゴ民主共和国（DRC）とその周辺国において採掘される鉱物資源が、人権侵害、環境破壊等を引き起こしている武装勢力の資金源となることが懸念されています。米国の金融規制改革法では、紛争鉱物と定義されるスズ、金、タンタル、タングステンの4種類の原料となる鉱物を対象に、これらの地域の武装勢力の資金源となっているかどうかを把握し報告するよう、米国上場企業に課しています。タムラのソルダーペーストはスズを主成分とするはんだを使用しているためこの紛争鉱物問題を重要な課題と捉え、これらの地域の武装勢力の資金源となる紛争鉱物を購入、使用しない方針を示し、取引先様のご協力を得ながらサプライチェーンを通じた取り組みを進めています。

### 対応状況

- 「タムラグループ行動規範」「タムラグループ調達ガイドライン」に、紛争鉱物不使用の推進として、非人道的な扱いなど、基本的人権を損なう労働によって生産された原材料を購入しないよう明記し取引先様の理解を求めるとともに、基本契約等の締結において、紛争鉱物の不使用を定めています。
- 当社製品の原材料等に武装勢力の資金源となる紛争鉱物が含まれていないかどうか、取引先様および二次、三次の取引先様のご協力を得ながら紛争鉱物の使用実態の調査を実施しています。

## 英国現代奴隷法への取り組み

英国のグループ会社タムラ・ヨーロッパ・リミテッドは、2015年に英国で施行された現代奴隷法に基づき、奴隷および人身売買に関するステートメントを公開しています。

[ANNUAL MODERN SLAVERY STATEMENT](#)

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミア環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
人権・労働	品質・サービス	サプライチェーンマネジメント	社会貢献活動		

[トップページ](#) > [CSR](#) > [社会貢献活動](#)

## 社会貢献活動

社会との調和および共存を図るために、国や地域社会との相互理解を深め、信頼関係を築くとともに、地域に貢献する事業経営を積極的に行います。



- 社会貢献活動費
- 寄付
- ものづくり教室開催
- バングラデシュにおけるドロップインセンター事業支援
- スポーツ活動支援
- 赤谷プロジェクト活動への参画
- インターンシップ・職場体験学習
- 事業所近隣・周辺の環境美化活動
- 献血活動
- 使い捨てコンタクトレンズ空ケースリサイクル活動
- ユニセフ外国コイン募金
- 使用済み切手収集活動の推進

### 社会貢献活動費

タムラグループの2019年度の社会貢献活動費総額は、約3,600万円、経常利益の約1.4%（2018年度実績は総額約3,300万円）でした。今後、も新たなテーマに取り組みながら、活動の強化を図ってまいります。

### 寄付

タムラグループでは、以下のような寄付活動（金銭、物資の両方）を行っています。

- 日本赤十字社の活動資金
- 日本赤十字社、経団連（1%クラブ）、その他の団体を通じた被災地支援
- 工場立地地域の加盟各種団体への活動会費
- 地域祭礼への寄付
- 大学、公的機関への研究支援（自社の製品・技術開発を目的としたものは除く）

### ものづくり教室

未来を担う次の世代に「ものづくり」の素晴らしさを伝えるために、2008年より毎年ものづくり教室を開催し、従業員が子供たちにAMラジオなどの製作を指導しています。2019年度もタムラ製作所、若柳タムラ製作所、会津タムラ製作所で開催し、好評を博しました。



彩の国オープンファクトリーin入間  
[タムラ製作所入間事業所]



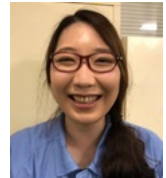
サイエンスプラス<東北職業能力開発大学校>  
[若柳タムラ製作所]



会津美里町立本郷小学校  
[会津タムラ製作所]

#### <指導員の声>

入間事業所のものづくり教室に指導員として初めて参加しました。生徒の皆さんは、最初は高温のはんだごてを扱うことに躊躇しながらも、本格的なはんだ付けにワクワクしながら取り組んでおり、無事に完成した時には一緒に達成感を味わうことができました。



電子化学実装開発本部  
実装材料開発統括部  
田中 澄伶

## バングラデシュにおけるドロップインセンター事業支援

NPO法人国境なき子どもたちを通じて、2017年よりバングラデシュ・ダッカにおけるストリートチルドレンを対象としたドロップインセンター事業への支援を実施しています。同センターは貧困、虐待など家庭の問題で路上での生活を余儀なくされているなどの子どもたちの支援を目的として開設され、食事の提供や教育活動、啓発活動を行っています。当社はバングラデシュに関連会社を置き、1997年より長年にわたり自動販売機用LEDなどの生産を行っています。今後も現地に根差す企業として、子どもたちへの支援を継続してまいります。



(C) KnK

## スポーツ活動支援

スポーツ活動支援を通して、地域への社会貢献活動の充実を図っています。

#### ◆ちふれASエルフェン埼玉への協賛

タムラ製作所は2006年より、日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）で活躍する「ちふれASエルフェン埼玉」をトップパートナーとして応援しています。2018年3月には、チーム発祥の地狭山市において、当社が冠スポンサーを務める「狭山シティカップ」が開催されました。



オフィシャルサイトはこちら

## 赤谷プロジェクト※活動への参画

タムラ製作所は、(公財)日本自然保護協会の会員企業として、生物多様性の復元に取り組む「赤谷プロジェクト」を支援するため、プロジェクトの活動地「赤谷の森」の麓にある当社の保養所及び研修施設を提供しています。

2018年より人工林から自然林への復元を目指す「赤谷の森づくり」ボランティア活動を開始し、2019年度もタムラ製作所およびグループ会

社従業員有志が参加しました。今後も毎年の恒例行事として取り組み、私たちの手で森がどのように変わっていくか見守っていきます。



※赤谷プロジェクト：群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる、約1万ヘクタール（10km四方）の国有林「赤谷の森」を対象に、地域住民で組織する「赤谷プロジェクト地域協議会」、林野庁関東森林管理局、日本自然保護協会の3つの中核団体が協働して、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める取り組み。

## インターンシップ・職場体験学習

タムラグループでは、未来を担う次の世代に「ものづくり」の素晴らしさを伝えることは「企業の社会的責任」（CSR）であるとの考えに基づき、「ものづくり」の現場体験の場や、社員と交流する場を設けるなどにより、「働くこと」を実感してもらう活動を推進しています。海外関係会社を含め、中・高・大学生や留学生などを対象としたインターンシップや職場体験学習を受け入れています。また、企業における「人材育成」や「顧客サービスの仕組み」を学び、今後の学校運営や授業改善に活かしていただく機会として、学校の先生方を対象とした職場体験学習も受け入れています。



大学生の工場見学会  
[坂戸事業所]

## 事業所近隣・周辺の環境美化活動

国内・海外の各事業拠点において、地域の環境美化活動に参加および事業所近隣・周辺の清掃を実施しています。



天津市内の公園清掃  
[田村電子材料（天津）]



工場周辺の清掃活動  
[オブシード・バングラデシュ]

## 献血活動

国内・海外の各事業拠点において、従業員等を対象とした献血活動を実施し、血液不足の解消に協力しています。



[若柳タムラ製作所]



[本社・東京事業所／光波]



## 使い捨てコンタクトレンズ空ケースリサイクル活動

HOYA株式会社が推進する使い捨てコンタクトレンズの空ケースリサイクル運動「アイシティecoプロジェクト※」に参加、2018年7月より活動を開始しました。使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収・リサイクルによる再資源化により、CO<sub>2</sub>を削減することができ、空ケースの売却代金は（財）日本アイバンク協会へ寄付されています。日本国内の各事業所・グループ会社に空ケースの収集ボックスを設置し、2020年3月までに、約30kgのケースを収集しました。

※アイシティecoプロジェクトの活動は[こちら](#)をご覧ください。



## ユニセフ外国コイン募金

2013年より日本ユニセフ協会の「ユニセフ外国コイン募金」に参加し、グループ従業員から外国コインを集め、ユニセフの活動資金として世界の子供たちのために役立てています。今後とも継続して活動に取り組んでまいります。



## 使用済み切手収集活動の推進

日本国内のタムラグループでは、使用済み切手を収集、コレクターに販売することにより換金し、地域ボランティア活動や海外医療協力団体等に寄付する「使用済み切手収集活動」を2010年3月より実施しています。使用済み切手の換金率は、約1,000～1,200円/kgです。

2019年度はグループ合計で約4.7kgの使用済み切手を収集しました。

年度	2017	2018	2019
収集量(kg)	9.7	5.3	4.7



## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
コーポレート・ガバナンス	コンプライアンス	リスクマネジメント			

[トップページ](#) > [CSR](#) > [コーポレート・ガバナンス](#)

## コーポレート・ガバナンス

企業価値を最大化する企業経営に取り組むため、コーポレート・ガバナンス体制の充実を図っています。



### コーポレート・ガバナンスの考え方

タムラグループは、経営の透明性・効率性の向上をコーポレート・ガバナンスの基本方針とし、経営陣の強い使命感と高い企業倫理観に基づき、コンプライアンス経営と企業価値の最大化に努め、株主の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーが求める経営を目指します。詳細およびコーポレート・ガバナンス報告書は[こちら](#)をご覧ください。

### コーポレート・ガバナンス体制

#### ◆取締役会と執行役員機構

経営の意思決定と業務執行の乖離を防ぐため、各事業部門を統括する執行役員を取締役が兼務する「執行役員制度」を採用しています。取締役会を原則毎月1回、取締役と各部門責任者による業務執行・経営監視に関する経営会議を年に8回程度開催し、取締役の効率的な業務執行を確保しています。

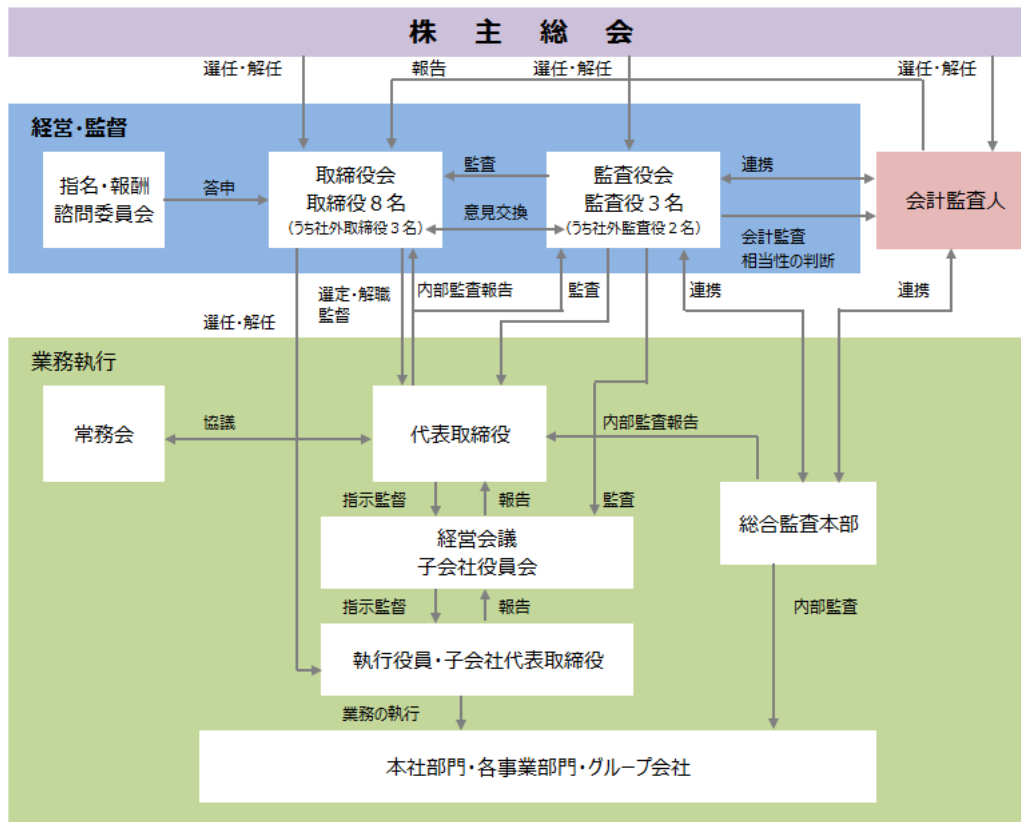
#### ◆監査役制度と内部監査

監査役3名（うち社外監査役2名）からなる監査役会を置き、取締役会・経営会議への出席、取締役などからの職務執行状況の聴取、重要な決裁書類の閲覧、主要事業所での業務及び財務調査等により取締役の職務の執行を監査しています。また、総合監査本部は年度監査計画書に基づき、監査役と連携して本社およびグループ各社の国内・海外の拠点について内部監査を行っています。

#### ◆指名・報酬諮問委員会

役員等の指名及び報酬について公正・透明に決定するため、取締役会の諮問機関として、指名・報酬諮問委員会設置し、年に数回開催しています。委員会は代表取締役2名・社外取締役3名で構成され、筆頭社外取締役を委員長としています。

#### ◆コーポレート・ガバナンス体制図（2020年6月25日現在）



## 内部統制システムに関する基本的な考え方

タムラグループは、経営コントロールの強化を実現するための内部統制システムの目的を「経営の安定化および効率化」「適正な説明責任の実行」「法規制と内部規程の遵守」とし、「リスクマネジメント」「コンプライアンス」「内部監査」をその実現手段として捉え、その実現のための体制を構築しています。

## 取締役会実効性評価

取締役会の実効性の向上を図ることを目的として、取締役会の実効性に関する分析・評価を毎年実施しています。

### ◆分析・評価の方法

すべての取締役・監査役を対象に、当社が任意で設置する指名・報酬諮問委員会を含む取締役会全体の実効性について、無記名式アンケートを実施し、社外第三者（弁護士）によるアンケートの集計結果及び分析評価の報告を踏まえ、取締役会で改善策等について議論を行っています。

### ◆2020年取締役会実効性評価結果概要

アンケート結果及び社外第三者による分析評価の報告内容から、当社取締役会が、適切に議事運営を行っていること、付議事項等につき適切なタイミングで審議を行っていること、取締役会によるコンプライアンス体制・内部統制システム・リスク管理体制等の整備及び運用の監督が実効的に機能していること、社外取締役・社外監査役が取締役会における充実した議論に貢献しており取締役会の実効性強化に有効に機能していること等を確認いたしました。また、前年の取締役会実効性評価以降、取締役会に対する情報提供の方法やリスク管理体制の整備等に関して、工夫・改善等を行った点について、その成果が着実に上がっていることを確認いたしました。今後も取締役会の多様性確保、経営陣幹部の育成計画の策定・運用に対する取締役会の主体的な関与・監督等について、継続的な改善に取り組めます。

## 役員報酬

取締役と監査役の報酬は株主総会で決議されたそれぞれの報酬限度額内で支給しています。取締役報酬は、業績連動型報酬制度並びにストックオプション制度（社外取締役を除く）を導入しています。業績連動型報酬制度は、収益性向上と株主価値向上の評価視点より売上高・営業利益・親会社株主に帰属する当期純利益・ROA・ROE等を評価指標とし、業績に連動した報酬としています。取締役報酬規程に則り、指名・報酬諮問委員会にて審議し、取締役会で決定しています。監査役の報酬は、監査役報酬規程に則り、社外監査役を含む監査役会にて決定しています。

## IRコミュニケーション

株主・投資家の皆様にタムラグループを正しく理解・信頼していただくため、各種法令・規則に沿って企業情報の適時かつ適切な開示に取り組んでいます。

### ◆投資家向け決算説明会の実施

当社は3月を本決算とし、四半期毎に決算発表を行っております。本決算発表(5月)と第2四半期決算発表(11月)の際には発表日後数日以内にアナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催し、社長および経営幹部が決算概況や将来見込等の説明を行っています。その資料は発表後遅滞なくホームページに掲載しています。また決算説明会では、IR活動に関するアンケートを実施し、株主・投資家の皆様に向けた情報発信方法を改善するよう努めています。

### ◆ホームページによる投資家向け情報開示

迅速かつ公平な情報を公開するため、投資家情報サイトを開設し、コミュニケーション促進に取り組んでいます。有価証券報告書、決算説明会の資料などは発表後遅滞なくホームページに掲載しています。そのほかにも株主・投資家の皆様向けの各種情報媒体として、決算短信（四半期ごと）や株主通信などを掲載しています。

IR情報は[こちら](#)をご覧ください。

### ◆利益還元の方針

当社は、中長期的な経営計画を通じた企業価値の増大を図りつつ、事業収益の拡大と内部留保の確保による財務体質の強化に取り組むと共に、株主の皆様への利益還元を最重要課題ととらえ、配当水準の安定と向上に努めてまいります。

配当金の推移は[こちら](#)をご覧ください。

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	
コーポレート・ガバナンス	コンプライアンス	リスクマネジメント			

[トップページ](#) > [CSR](#) > [コンプライアンス](#)

## コンプライアンス

倫理・法令の順守を徹底するとともに、想定される様々な経営危機に適切に対応するため、コンプライアンス推進、危機管理体制の維持・強化にグループ全体で取り組んでいます。



### コンプライアンスの考え方

企業を永续させ、あらゆるステークホルダーの要望に応えるためには、法令を順守すると共に高い倫理観を持って企業活動を行う必要があります。タムラグループでは、「タムラグループ行動規範」および「倫理法令遵守規程」を基にコンプライアンス・ハンドブックを制定し、日常の職務を遂行する過程で順守すべき以下の行動基準を定め、あらゆる不正・違法行為の未然防止に取り組んでいます。

- ・人権の尊重、パワハラ・セクハラ禁止
- ・機密情報の保持、漏洩の禁止
- ・個人情報の保護
- ・インサイダー情報の保持及びそれを基にした取引の禁止
- ・会社資産及び知的財産の適正利用と保護
- ・贈賄及び過度の接待・贈答の禁止
- ・反社会的行為への関与の禁止
- ・その他業務上の固有のリスクを部署別に制定

### 内部通報制度

タムラグループ内部において組織的・個人的に行われる違法行為等もしくはそれらに該当する恐れのある行為について、相談・通報を受け、問題行為の早期発見と是正並びに防止を図り、コンプライアンス遵守の体制を確立・強化することを目的とした内部通報制度を整備しています。

#### ◆倫理法令相談窓口

違法行為等の通報・相談窓口として「倫理法令相談窓口」を設置し、コンプライアンス問題への迅速な対処と未然防止を図っています。タムラグループの役員・従業員等は誰でも、「社内窓口」もしくは経営陣から独立した「独立窓口」のいずれかを選択して通報・相談できます。通報・相談の際の不安を解消するために、社外のシステムを利用し情報の秘匿性を確保し、「内部通報規程」において通報・相談者の匿名性確保や不利益な取り扱いの禁止を規定しています。

2019年度の内部通報・相談件数は7件（2017年度は13件、2018年度は11件）でした。今後も内部通報制度が実効的に機能するよう、周知してまいります。

通報・相談窓口		通報・相談の方法	
社内窓口	内部監査部門長・法務部門長	・ホットライン ・ヘルプライン	－専用電話 －PC・スマートホンのWeb －電話（オペレータ）
独立窓口	社外取締役・監査役	・ヘルプライン	－PC・スマートホンのWeb －電話（オペレータ）



## ピックアップ

---



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.

トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	

コーポレート・ガバナンス	コンプライアンス	リスクマネジメント			
--------------	----------	-----------	--	--	--

[トップページ](#) > [CSR](#) > [リスクマネジメント](#)

## リスクマネジメント

想定される様々な経営危機に適切に対応するため、危機管理体制の維持・強化にグループ全体で取り組んでいます。



### リスク管理

#### ◆リスク管理規程

経営に重要な影響を与えるリスクへの対応を定めた「リスク管理規程」を制定し、グループ全体での危機管理体制の強化を図っています。この規程では、経営危機に対して役員および従業員が一丸となり、迅速かつ冷静に対応すること、そして人命に関わる場合には、人命の保護・救助を最優先させて対応することを原則としています。また、リスクの度合いと影響の大きさに応じてレベルAとレベルBに分類した「アラームエスカレーション項目」を定義しています。

#### ◆アラームエスカレーションWeb報告システム

アラームエスカレーションWeb報告システムは、「リスク管理規程」に定義されたリスク事象が発生したときに、イントラネット等を利用して速やかに経営層に直接報告を上げ情報共有を図ると共に、必要に応じ関係者が一丸となって対応するための報告システムです。「リスク管理規程」にはタムラグループの役員・従業員等は、経営上の危機につながるとされる事象を発見した場合、直ちに報告を行うことが義務付けられています。

### 安全保障輸出管理への対応

日本をはじめとする主要国では、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、国際社会の安全性を脅かす国家やテロリスト等、懸念活動を行うおそれのある者に渡ることを防ぐため、国際的な枠組みを作り、輸出入の管理を行っています。

日本においては、この安全保障の観点に立った貿易管理の取り組みを、外国為替及び外国貿易法に基づき実施しています。タムラグループでは、旧ココム規制以来、これに対応した取り組みを実施しており、2005年7月には、新たな安全保障輸出管理規程を制定し、これを経済産業省に届け出ました。以来、社内に安全保障輸出管理体制を組織し、外為法等の規制法令の改訂の都度、社内規程の改訂を行い、社内教育等で周知徹底し継続して厳格な対応をしています。

### 事業継続計画(BCP)

東日本大震災を契機に事業継続計画の重要性を認識し、2011年度に国内外の全事業所を対象とした「タムラグループ大規模地震対策マニュアル」を発行しました。大規模地震発生直後の初動対応から復旧、事業再開に至る対応内容を取りまとめたものです。2012年度には大規模地震以外の災害として、風水害、火災、大規模停電、集団感染、放射性物質による汚染、戦争/革命/内乱/暴動をリスクに加え、「タムラグループ緊急事態対策マニュアル」として拡張し、継続的に改善しています。

#### ◆防災用品の整備および備蓄

事業拠点毎に防災用品の整備および備蓄を計画的に進めています。2012年度は、国内における徒歩帰宅困難者の3日分の飲料水と食料品の備蓄、従業員および常駐している協力会社社員などの全員を対象に避難用ヘルメットの配布、及び東日本大震災発生直後に通信手段が絶たれたことを教訓とした代替通信手段の導入を行いました。2013年度は、停電時に備えた発電機、及び救助用具、簡易トイレ、毛布等の備蓄整備を、2014年度には災害備蓄セットの全従業員への配布、及び一部事業所へのリアカーの配備を、2015年度には災害備蓄セットを補完する携

帯電話充電器等の全従業員への配布を行い、その整備を完了しました。2016年度以降は、備蓄品の拡充や賞味期限の近づいた食料品をフードバンクに寄付するなど、定期的に見直してメンテナンスしています。

#### 新型コロナウイルスへの対応（2020年5月時点）

タムラグループでは、地域社会の皆様、取引先様、当社グループ従業員の健康と安全を最優先に考え、衛生管理の徹底、在宅勤務・輪番勤務の導入、電話・Web会議の活用など、感染拡大防止に向けた対応を、各国政府や地方自治体の方針に基づき実施してまいりました。

また、2月初旬より本社に危機管理室を立ち上げ、グローバルに状況を把握し、世界各地の拠点が連携することで、世界のお客様へ途切れることなく製品・サービスの提供を続けています。

日本	●2月初旬より本社に危機管理室を立ち上げ、世界各国の拠点と連携して、事業継続をグローバルにコントロール。 ●緊急事態宣言下では、ICTを活用した在宅勤務・輪番勤務・時差勤務、オフィスのレイアウト変更などにより、対人接触7割以上、目標8割の削減に取り組みつつ、通常通りのお客様対応を行いました。
中国	●春節休暇を延長して稼働を停止するも、2月10日より再開し、3月以降は通常稼働に戻っています。
欧米	●電子部品事業のイタリア設計事務所は在宅勤務、チェコ工場は通常稼働。 ●ドイツの電子化学事業の工場は安全配慮を行いながら稼働を継続。工場で製造したアルコール消毒液の社外への提供なども行いました。
その他	●マレーシアは3月中旬から4月にかけて政府通達に従い稼働を停止。地産地消の製品が多く、お客様も非稼働のため大きな問題は生じていません。 ●バングラデシュ工場は交代制で稼働。中国や日本が振替生産などでサポートしています。

## 情報管理

#### ◆情報セキュリティ

企業・個人情報などの適切な保護および管理のために、「情報管理規程」および「情報セキュリティ管理規程」を定め、情報に関するリスクマネジメントに取り組んでいます。サイバー攻撃や情報漏洩などに備えたネットワークへのセキュリティ対策、データへのアクセス制御、外部記憶装置の使用制限などの【技術的安全管理措置】をはじめ、【物理的安全管理措置】として不正な侵入の防止を目的としたIDカード認証システムの導入、また、従業員に対しての【適正な情報の取扱に関する教育】の実施。この3つの対策を情報セキュリティにおける重点施策として取り組んでいます。

また、特定個人情報等については、「行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に対応し、特定個人情報等の取得、保管、利用、提供、開示、訂正、利用停止、廃棄、削除の各段階における安全管理措置を確実に実行するための組織や体制を整備し、取扱担当者等の教育なども実施することで、特定個人情報等の保護に万全を期しています。

#### ◆適時・適正な情報開示

適時に適正な情報を公開するため、Webサイト上に投資家情報サイトを開設し、コミュニケーション促進に取り組んでいます。有価証券報告書、決算説明会の資料などは発表後遅滞なくホームページに掲載しています。そのほかにも、株主・投資家の皆様向けの各種情報媒体として、決算短信（四半期ごと）や株主通信などを発行しています。[IR情報は、こちらをご覧ください。](#)

## 知的財産の保護

当社は、経営部門、事業部門と知的財産部門とが一体となって、知的財産権を尊重する活動をしております。事業活動を行ううえで適切に知的財産を創造・保護・活用し、また他者の知的財産権の侵害防止に努めています。

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT



## 取引先通報・相談窓口

### 取引先通報・相談窓口

タムラグループ関係者がコンプライアンスに違反する行為を行った場合、又はその疑いがある場合、その旨をお取引先さまからお知らせいただくことで、法令違反行為等の早期発見と是正を図ります。

下記の内容をご確認のうえ、本ページの下にある「同意する」をクリックし、「通報・相談窓口専用フォーム」よりご連絡ください。通報・相談内容及び個人情報、受付窓口である（株）タムラ製作所のコンプライアンス担当者が拝見いたします。

なお、個人への誹謗・中傷の意図など悪意のある通報・相談は固くお断りします。

#### ご利用対象者

タムラグループ各社と業務上の取引をしているお取引先の役員及び従業員（契約社員、アルバイト、派遣社員を含む）の方

#### 通報・相談者の保護

- ・通報・相談された方の個人情報は、ご通報・ご相談内容の事実確認や、対応結果をご連絡させていただく目的で利用します。
- ・通報・相談したことを理由として、タムラグループが通報・相談した方及びその勤務先に対し不利益な取り扱いを行うことはありません。

#### 通報・相談後の対応

- ・通報・相談を確認しましたら、通報・相談された方にメールにて受信通知をお送りします。
- ・事実確認のために、通報・相談された方に通報・相談内容の詳細を伺う場合があります。
- ・調査の結果、法令違反行為等が確認された場合は、速やかに是正措置を行い、再発防止を徹底いたします。

#### ご通報・ご相談における個人情報の取り扱いについて

- ・本サイトにてご提供いただきましたお取引先さまの個人情報は、ご通報・ご相談内容の事実確認や、対応結果をご連絡させていただく目的で利用いたします。
- ・お取引先さまの入力された内容は、タムラ製作所の「[プライバシーポリシー](#)」に基づき、適切に管理いたします。なお、頂いた個人情報の訂正・削除等を希望される場合は、「通報・相談窓口専用フォーム」にてご連絡ください。

同意する

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT





トップメッセージ	経営理念	タムラグループの価値創造	CSRマネジメント	環境(E)	社会(S)
ガバナンス(G)	取引先通報・相談窓口	編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料	

[トップページ](#) > [CSR](#) > [編集方針](#)

## 編集方針

「CSRサイト」は、タムラグループのCSR・ESGに対する考え方や取り組みについて、幅広いステークホルダーの皆様にお伝えするサイトです。当社の活動についてご理解を深めていただけるよう、わかりやすく充実した情報開示に努めています。

当サイトの編集にあたっては、環境省『環境報告ガイドライン』、ISOガイダンス規格『ISO26000』を参照しました。

また、『[TAMURA CORPORATION REPORT 2020](#)』は、グループ概要や事業を紹介した[CORPORATE PROFILE]と、CSRをダイジェストで紹介した[CSR REPORT DIGEST]を1冊にまとめて、タムラグループをご紹介します冊子として発行するものです。

### 報告対象期間

2019年4月1日～2020年3月31日（一部、2020年4月以降の活動も含みます）

### 報告対象範囲

株式会社タムラ製作所及びグループ会社です。

ただし、環境報告については、各種データ、及び活動報告とも、当サイト [環境経営ページの推進体制図](#)に掲載されている事業所及び関係会社を対象範囲としております。

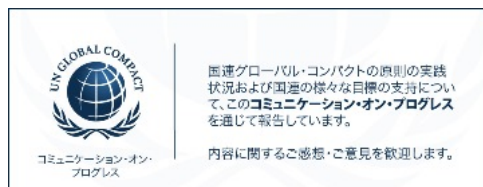
### 発行

2020年8月（前回：2019年7月 次回：2021年7月）

なお、最新の活動情報については、「CSRサイト」に随時追加掲載し、新着情報でお知らせいたします。

### 国連グローバル・コンパクトへの報告

「CSRサイト」及び「TAMURA CORPORATION REPORT」を国連グローバル・コンパクト署名企業の年次活動報告書「コミュニケーション・オン・プログレス」として提出しています。



### お問い合わせ先

CSR推進本部

TEL：03-3978-5293 FAX：03-3978-2760

メールフォーム <https://www.tamura-ss.co.jp/inquiry/index.html>

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.